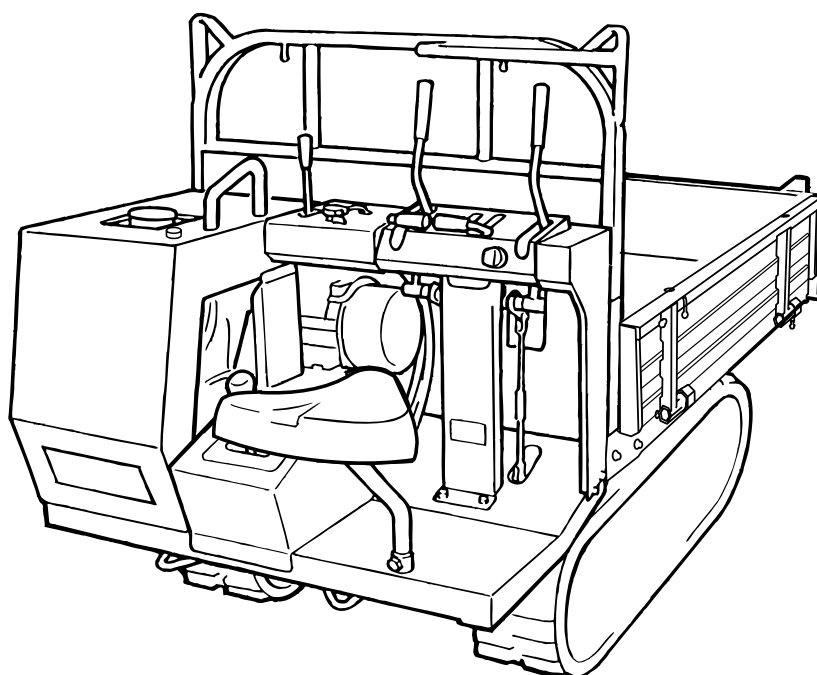


# 小型運搬車 BK811

## 取扱説明書

# 包丸



### ⚠ 警告

- ・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- ・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3697 5501 000

---

# 株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp/>

---

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

ご注文、製品に関するお問合せは

アドバンスオーダーセンター

TEL (0943) 75-8055 FAX (0943) 75-8060

部品、修理に関するお問合せは

パーツ・サービスセンター

TEL (0943) 75-3170 (代) FAX (0943) 75-5861

連絡先控え（販売店名）

---

## 本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。

また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

### 警告

- ・ 本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
- ・ 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

## 本製品について





### 警告

- ・ 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
  - ・ 本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。
  - ・ 本製品は、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での運転による事故および違反につきましては、責任を負いかねます。
  - ・ 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。
-

---

## 本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警 告 用 語	意 味
 <b>危 険</b>	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 <b>警 告</b>	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
 <b>注 意</b>	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
 <b>ア ド バ イ ス</b>	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

---

# 保証とアフターサービスについて

## 保証について

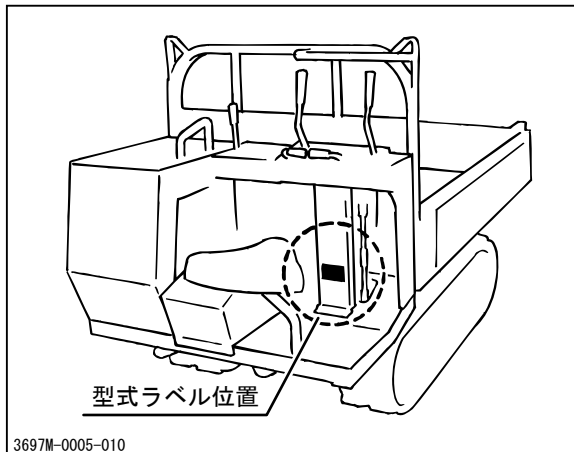
当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

## アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。

搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「本製品の仕様」を参照してください。（☞10ページ）

### 型式ラベル位置



### 型式ラベル



## 補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

## 純正部品の使用

本製品の消耗部品や補修用部品の交換時は、必ず純正部品を使ってください。純正部品以外を使用した場合は、故障の原因となったり、保証が受けられなくなる可能性があります。

---

---

# 目 次

## 1. 安全に関する注意事項 1

本製品に添付してある警告ラベルについて .....	1
安全運転・作業のための心得 .....	2
運転前の心得 .....	2
運転時の心得 .....	3
積載時の心得 .....	5
駐車時の心得 .....	6
整備時の心得 .....	7

## 2. 各部の名称とはたらき 8

各部の名称とはたらき .....	8
------------------	---

## 3. 製品仕様 10

本製品の仕様 .....	10
付属品明細 .....	12

## 4. 運転と操作 13

運転前の準備 .....	13
始業点検 .....	13
燃料とエンジンオイル量の点検と補給 .....	13
運転のしかた .....	15
始動のしかた .....	15
運転のしかた .....	19
停止のしかた .....	22
変速のしかた .....	23
駐車 of しかた .....	24

---

---

作業のしかた	26
ダンプ操作（ダンプ仕様車のみ）	26
積載のしかた（椎茸原木用荷台）	28
前ドアの開閉	29
荷台側板の操作	30
走行路の確保	31

## 5. 保守・お手入れ 32

定期点検表	32
給油・給水・給脂・注油一覧表	36
消耗品（交換部品）一覧表	37
カバーの取り外しかた・取り付けかた	38
箱型荷台・椎茸原木荷台仕様ネップウカバーの取り外しかた・取り付けかた	38
箱型荷台ダンプ仕様カバーの取り外しかた・取り付けかた	38
箱型荷台・椎茸原木荷台仕様安全カバーの取り外しかた・取り付けかた	39
箱型荷台ダンプ仕様安全カバーの取り外しかた・取り付けかた	39
エンジン	40
エンジンオイルの点検・補給・交換	40
エアクリーナの清掃・交換	41
点火プラグの点検・清掃・交換	42
フューエルフィルタの清掃	43

---

---

走行装置	44
クローラの点検・調整	44
トランスミッションオイルの交換	45
走行Vベルトの点検・調整	47
ベルトストッパの調整	48
ブレーキの点検・調整	49
サイドクラッチの調整	50
給脂・注油	51
油圧装置	53
パワーパッケージオイルの点検・補給	53
電気装置	55
バッテリー液の点検・補給・充電	55
使用後のお手入れ	57
通常使用後のお手入れ	57
寒冷期使用後のお手入れ	57
長期保管のしかた	58

## 6. 不具合発生時の処置 59

不具合診断表	59
--------	----

## 7. 本製品の移送 62

トラックへの積み降ろし要領	62
---------------	----

---



---

## 保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

## 付録

・エンジン取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

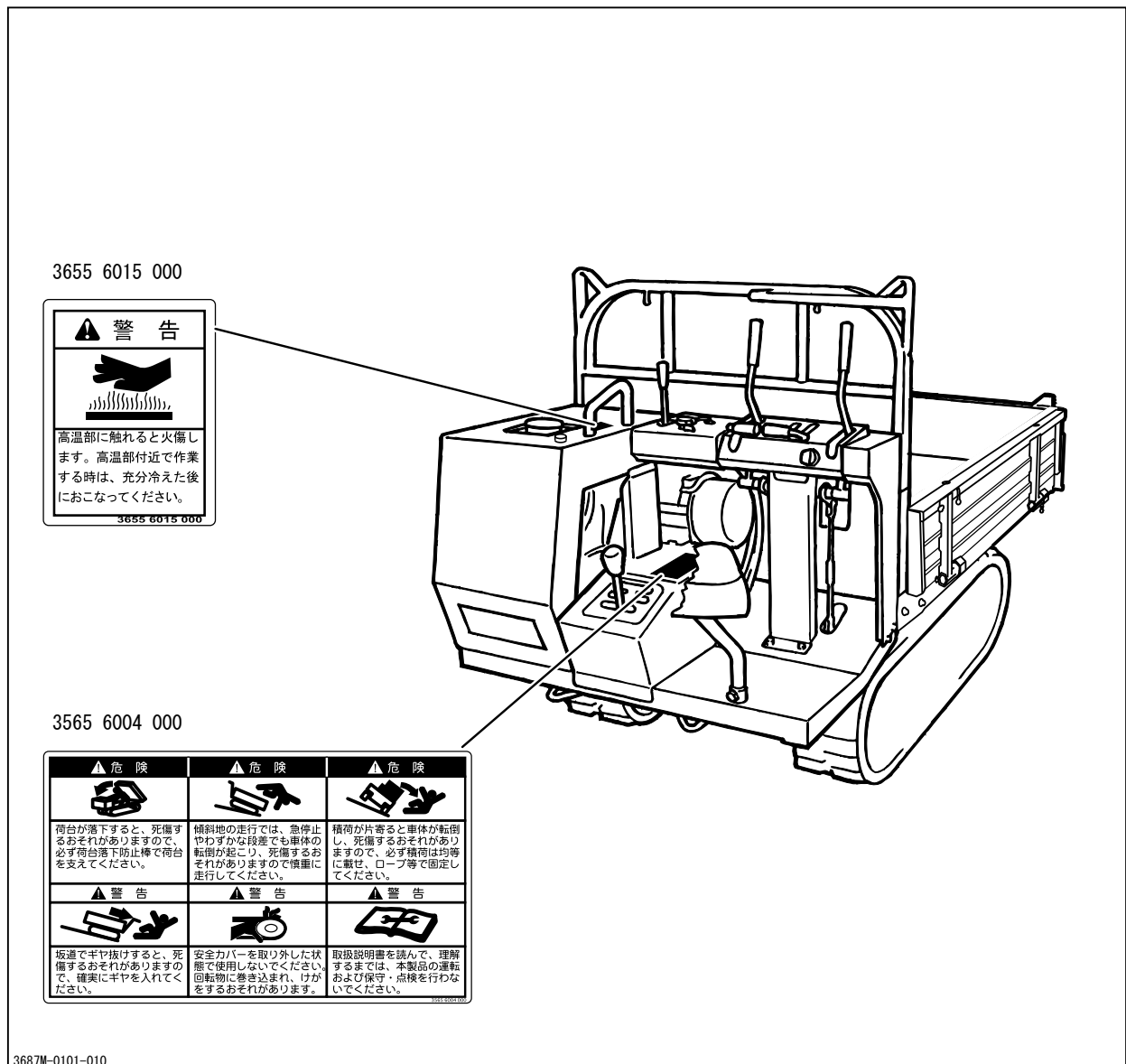
---

## 本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。

この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

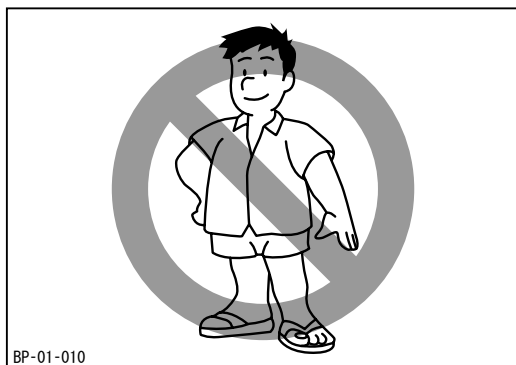
- ・ 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- ・ 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。  
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- ・ 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



## 安全運転・作業のための心得

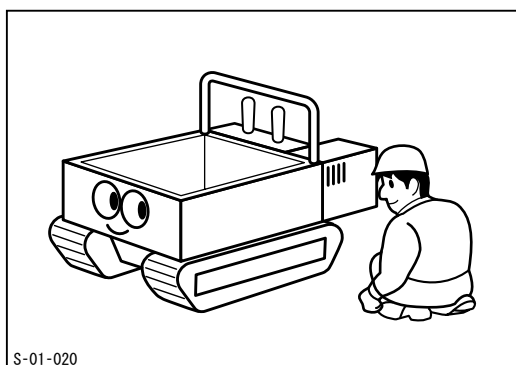
運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

## 運転前の心得



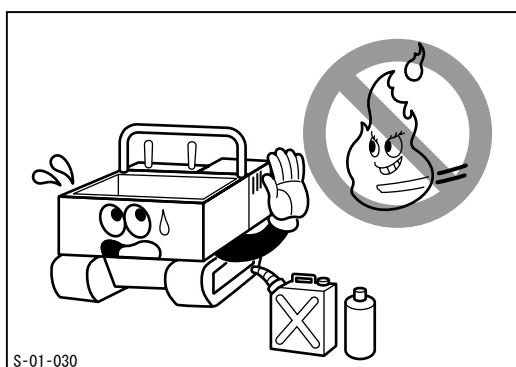
## 正しい服装の励行

運転・作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転・作業をしないでください。また、ヘルメット、保護靴、保護めがね、手袋等の保護具を着用してください。



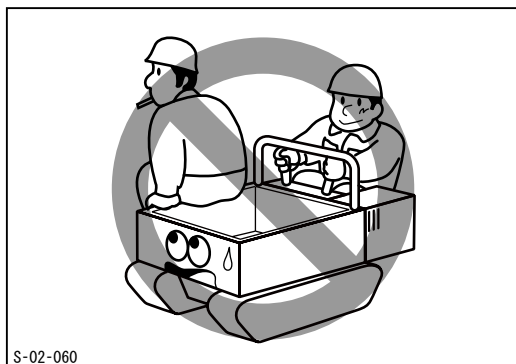
## 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



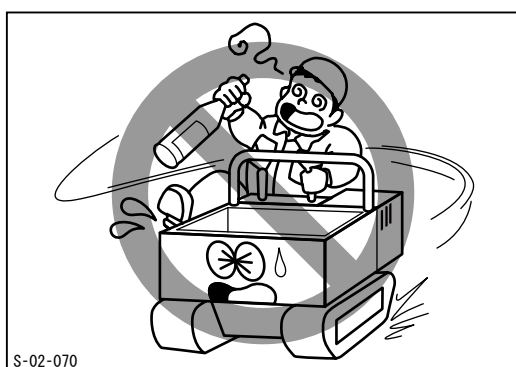
## 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



## 同乗禁止

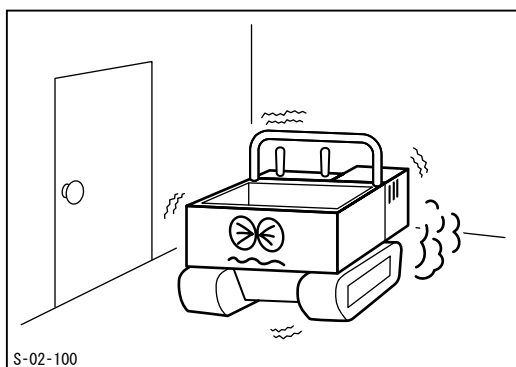
本製品は一人乗りです。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。



## 無謀運転禁止

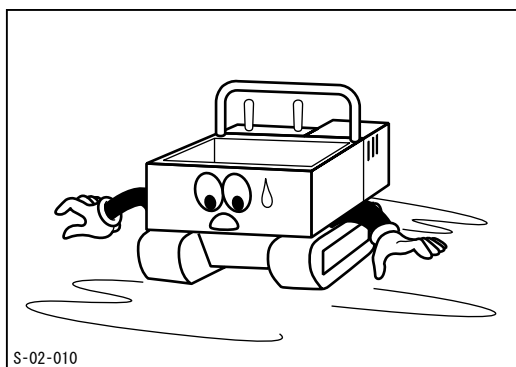
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

## 運転時の心得



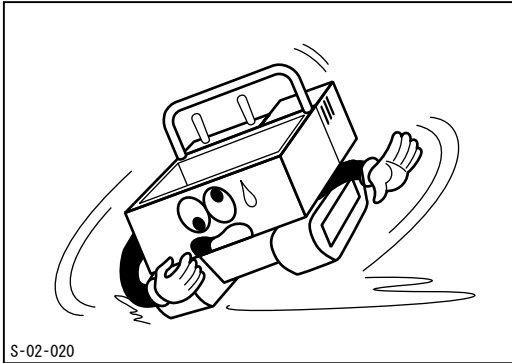
## 換気の悪い場所での指導・運転禁止

エンジンの始動・運転は必ず換気の良い場所で行なってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。

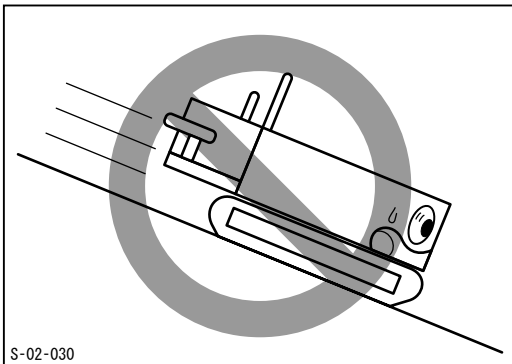


## 安全速度遵守

発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。

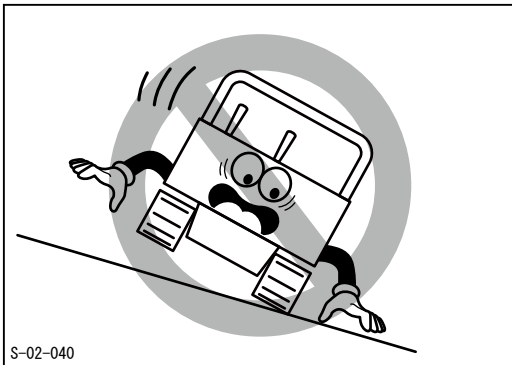


**急発進・急加速・急旋回・急ブレーキの禁止**  
急発進・急加速・急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。



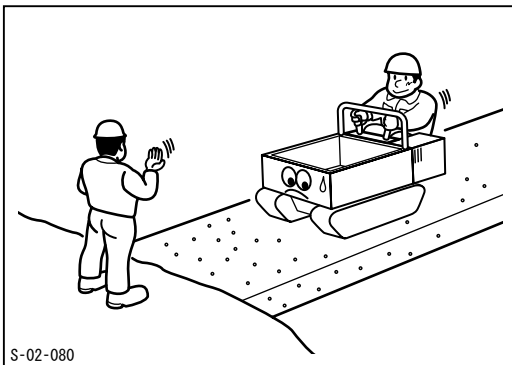
### 下り坂ではエンジンプレーキを

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速に入れ、エンジンプレーキを必ず使用して減速を行ってください。十分な減速を行わないで停止操作を行うと、車体が浮き上がるおそれがあり危険です。



### 斜面での横断禁止

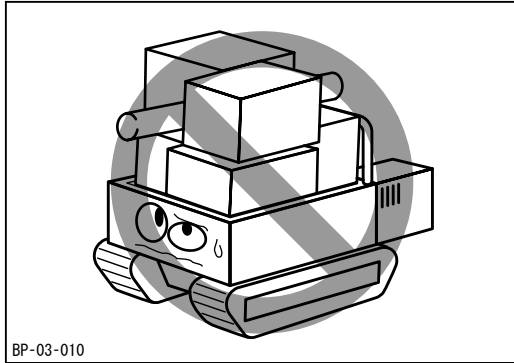
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると危険です。また急傾斜地ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は、逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。



### 危険な場所では誘導者の指示に従う

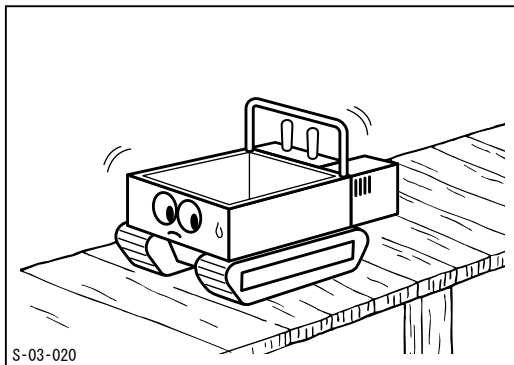
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

## 積載時の心得



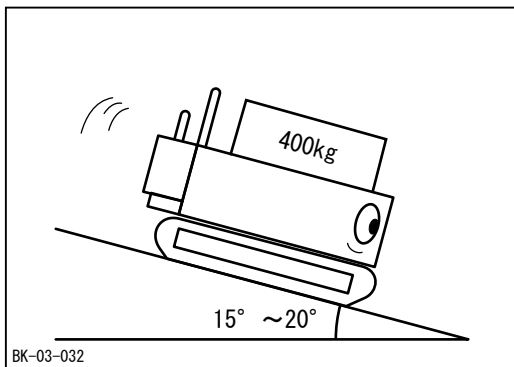
### 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。



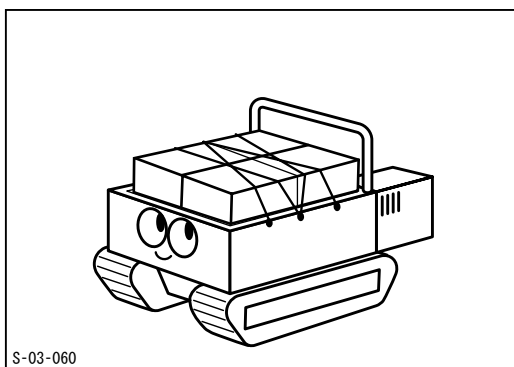
### 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



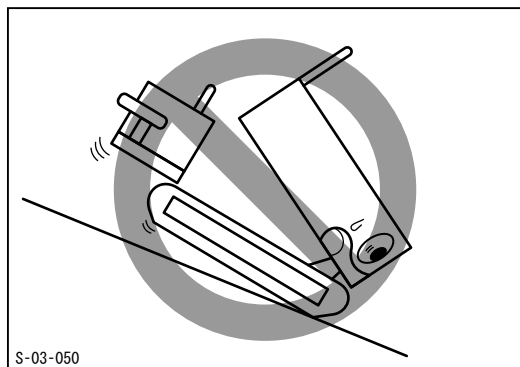
### 傾斜地での積載量に注意

15° ~ 20° の傾斜地では、積載量を400kg以下にして走行してください。20° を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態とし、山側にて運転操作をしてください。



### 積荷は正しく載せる

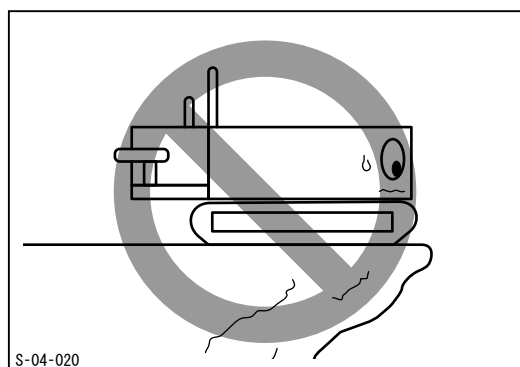
積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。



### 傾斜地でのダンプ操作禁止

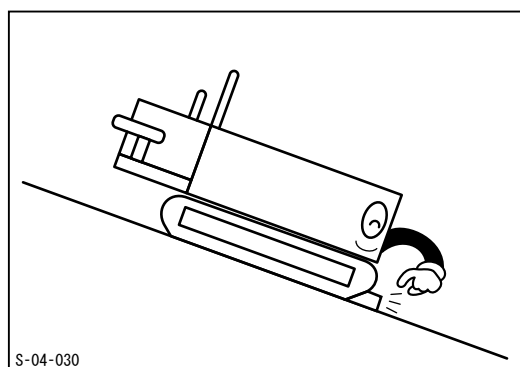
傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。車両が転倒するおそれがあります。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。

## 駐車時の心得



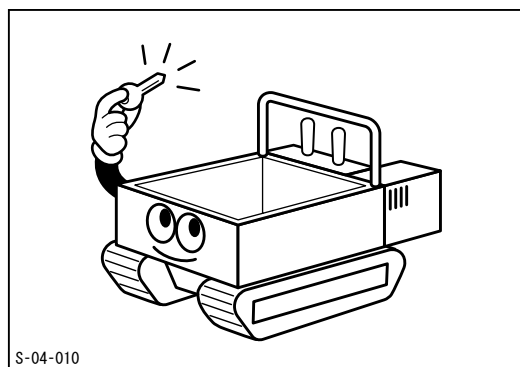
### 危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。



### 傾斜地での輪止め励行

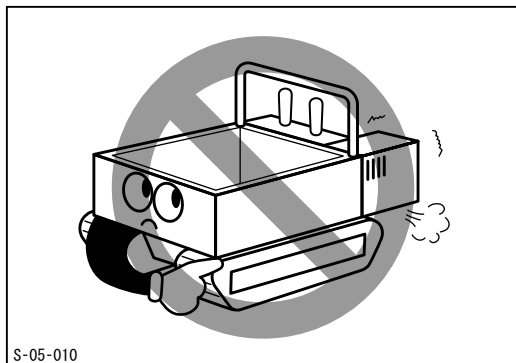
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。



### 駐車時の安全確認

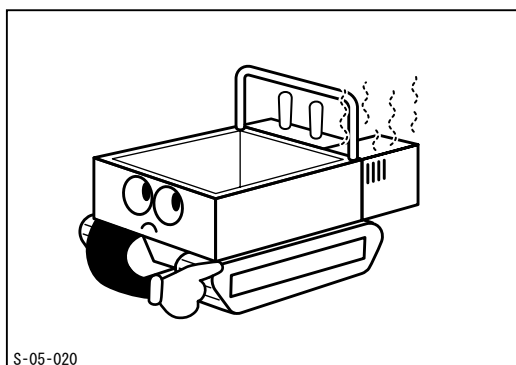
駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。また、キーを忘れずに抜いてください。

## 整備時の心得



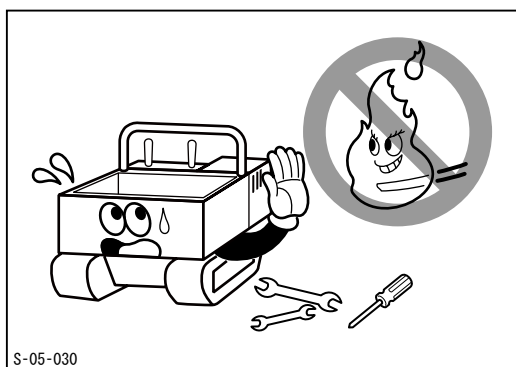
### エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。



### やけどに注意

エンジン停止直後は各部およびオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。



### 火気厳禁

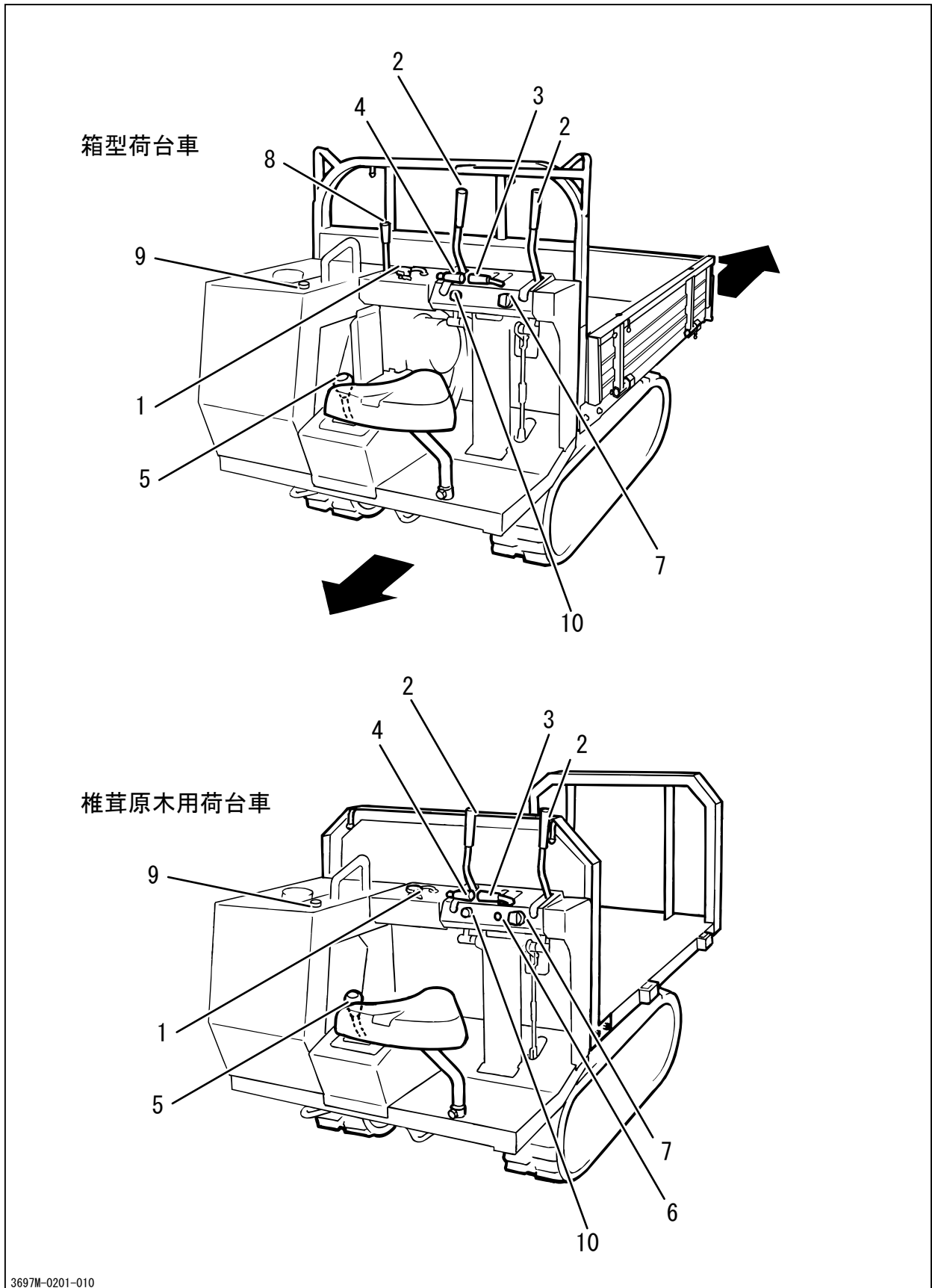
エンジンの整備時やバッテリーの充電時は、火気を近づけないでください。



## 2

# 各部の名称とはたらき

## 各部の名称とはたらき



- 1 アクセルレバー ……………エンジン回転数の増減を行います。
- 2 サイドクラッチレバー ……方向を変える時に使用します。車体はレバーを引いた側へ曲がります。また、左右のサイドクラッチレバーを同時に引くとその場で急停止します。
- 3 走行クラッチレバー ……………エンジンからトランスミッションへの動力の伝達を断続するときに使用します。レバーを前方に倒すと「走（発進）」の状態、後方に倒すと「停（停止）」の状態になります。
- 4 駐車ブレーキレバー ……………車体を確実に駐車します。レバーを前方に倒すと「切（ブレーキ解除）」の状態、後方に倒すと「入（ブレーキ作動）」の状態になります。
- 5 変速レバー ……………車両の前後進、走行速度の選択に使用します。  
変速は走行クラッチレバーを「停（停止）」にして、車体が停止した状態で行ってください。
- 6 ホーンスイッチ ……………ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。  
(椎茸原木用荷台車のみ) ……走行する時の警報・作業の合図等に使用します。
- 7 メインスイッチ ……………エンジンを始動したり、停止する時に使用します。
- 8 ダンプレバー ……………荷台の「上昇」、「下降」を行うときに使用します。  
(ダンプ仕様車のみ)
- 9 緊急停止スイッチ ……………緊急時に押すとエンジンを停止します。
- 10 チョークレバー…………エンジンを始動するときに使用します。チョークバルブの開閉を行います。

## 本製品の仕様

 注意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名 称 ・ 型 式			BK811		
			包丸		
荷 台 仕 様			箱型荷台	箱型荷台ダンプ	椎茸原木用荷台
機 械 質 量		kg	445	480	440
最 大 作 業 能 力		kN(kgF)	7.85(800)		
機 械 寸 法	全 長		mm	2450	2075
	全 幅		mm	1040	1060
	全 高		mm	1265	1180
	クローラ接地長さ		mm	975	
	クローラ中心距離		mm	680	
	最低地上高		mm	160	
	床 面 高 さ		mm	510	
荷 台 寸 法	形 式		箱型三方開(ロックンロール翼)		椎茸原木用荷台
	荷 台 内側寸法	長 さ	mm	1635	1260
		幅	mm	935	950
		高 さ	mm	230	600
エ ン ジ ン	名 称		三菱GB290		
	形 式		空冷4サイクル傾斜形横軸OHVガソリン		
	シ リ ン ダ (内 径 × 行 程)		mm	80×59	
	総 排 気 量		cm <sup>3</sup> (cc)	296(296)	
	最 高 出 力		kw(PS)/rpm	5.8(8.0)/2000	
	定 格 出 力		kw(PS)/rpm	4.4(6.0)/1800	
	最 大 ト ル ク		N·m(kgf·m)/rpm	35.3(3.60)/1400	
	始 動 方 式		セルフスタータ式		
	使 用 燃 料		自動車用無鉛ガソリン		
	燃 料 消 費 率		g/kW·h(g/PS·h)	313(230)	
	燃 料 タ ン ク 容 量		ℓ	6.0	
	潤 滑 油 容 量		ℓ	1.0	
	点 火 方 式		電子点火		
	点 火 プ ラ グ 品 番		BP5ES		

名 称 ・ 型 式			BK811		
			包丸		
荷 台 仕 様			箱型荷台	箱型荷台ダンプ	椎茸原木用荷台
電 装	バ ッ テ リ 型 式		30A19R		
	バ ッ テ リ 容 量		V/AH	12/21	
走 行 性	走 行 速 度	前 進 1 速	km/h	1.7	
		前 進 2 速	km/h	3.6	
		前 進 3 速	km/h	5.7	
		後 進 1 速	km/h	1.7	
		後 進 2 速	km/h	3.6	
能	最 小 回 転 半 径		m	1.52	1.46
	登 坂 能 力		度	25(空車)	
動 力 伝 達 装 置	トランスミッション油量		ℓ	2.0	
	ク ラ ッ チ 形 式		ベルトテンション式		
	主 変 速 形 式		ギヤスライド		
	操 向 装 置 形 式		ドグクラッチ・ブレーキ式		
	ブ レ ー キ 形 式		内拡式ブレーキ		
	ク ロ ー ラ		250×42×72		
ダ ン プ	ダ ン プ 方 式		-	フロントダンプ	-
	荷 台 形 式		-	3方開	-
油 圧 ポ ン プ	形 式		-	ギヤポンプ	-
	定 格 回 転 速 度		rpm	1500	-
	定 格 吐 出 量		ℓ/min	6.7	-
	リ リ ー フ 設 定 圧		MPa(kgf/cm <sup>2</sup> )	13.7(140)	-
装 置	シリンダ(内径×行程)		mm	60×200	-
	性 能	最 大 上 昇 角 度	度	58	-
		上 昇 時 間	sec	約5	-
		下 降 時 間	sec	約3	-
	油 圧 作 動 油 量		ℓ	-	1.6

※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

## 付属品明細

No.	部 品 名	個数	備 考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1式	エンジン整備用

## 運転前の準備

- ・ 本章を読む前に「安全運転・作業のための心得」（☞2ページ～7ページ）を必ずお読み下さい。
- ・ 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

## 始業点検

- ・ 運転前には必ず始業点検を行なってください。
- ・ 点検の要領については「定期点検表」（☞32ページ）を参照してください。

## 燃料とエンジンオイル量の点検と補給

### 警告

- ・ 給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。
- ・ 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。

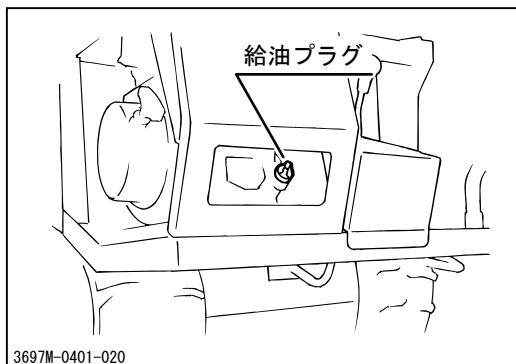


### 燃料の点検と補給

1. 燃料計を目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

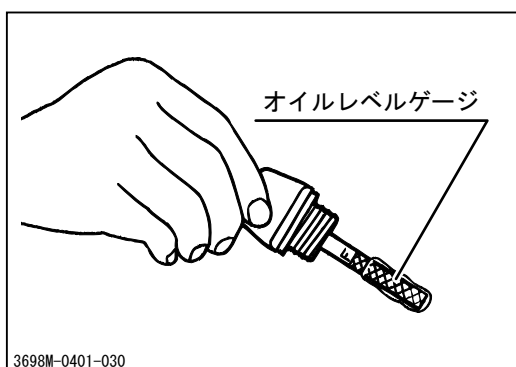
使用燃料：自動車用無鉛ガソリン

燃料タンク容量：☞6.0ℓ



### エンジンオイル量の点検と補給

1. エンジンオイルの給油プラグ（オイルレベルゲージ付き）を取り外します。
2. エンジンオイル量を目視点検し、規定量にない場合は、給油口からエンジンオイルを補給します。



使用オイル 36ページ

エンジンオイル量：

オイルレベルゲージの「F」と先端の間

## 運転のしかた

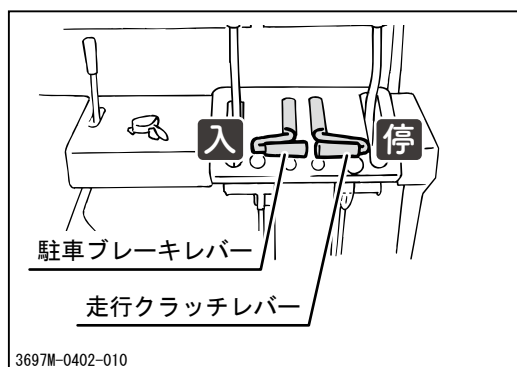
### 始動のしかた

#### ⚠ 警告

- ・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。排気ガスによる中毒のおそれがあります。
- ・エンジンの始動は必ず周囲の安全を確認してから行ってください。

#### ⚠ 注意

- ・エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」に回さないでください。スタータモータおよびエンジン破損の原因となります。
- ・始動時に5秒以上スタータモータを回さないでください。始動しない場合は10秒以上休んでから再始動してください。
- ・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンの寿命を短くすることになります。

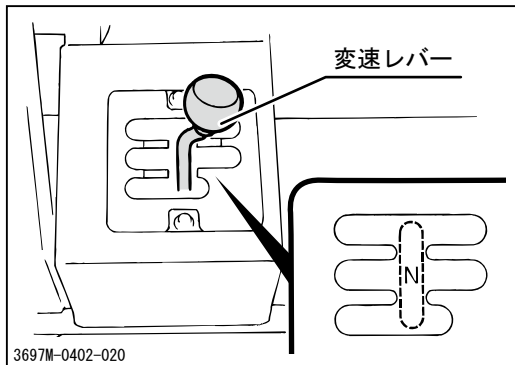


1. 走行クラッチレバーが「停」、駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。

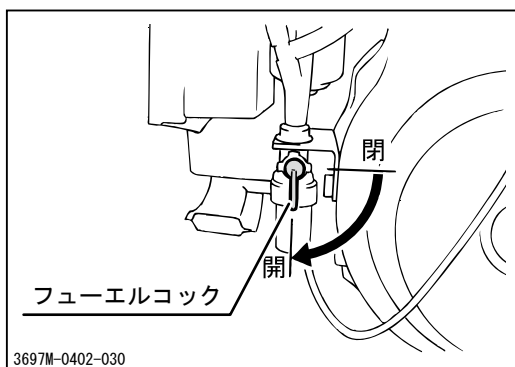
#### 👉 アドバイス

- ・始動安全装置を装備しているため、走行クラッチレバーが「停」の状態でないとうエンジンは始動しません。

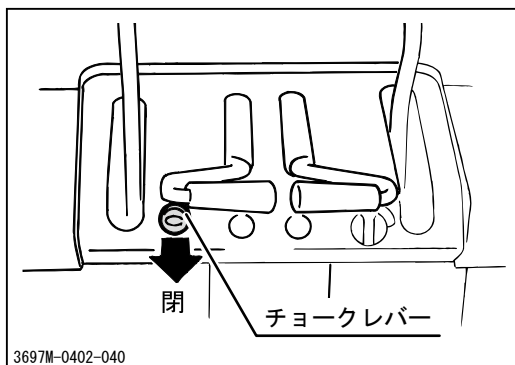




2. 変速レバーを「N (ニュートラル)」の位置にします。



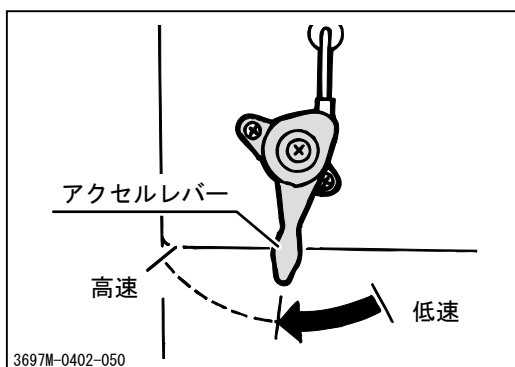
3. エンジンの燃料コックを「開」の位置にします。



4. チョークレバーを引っ張り、「全閉 (全閉)」の位置にします。

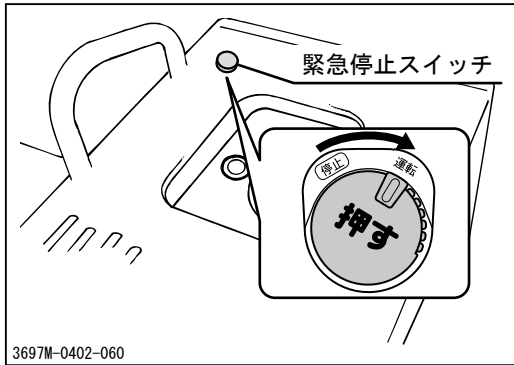
#### 👉 アドバイス

- ・高温時の使用 (概ね気温35°C以上) や運転停止直後の再始動時は、チョークレバーを全開または半開にして始動を試みてください。

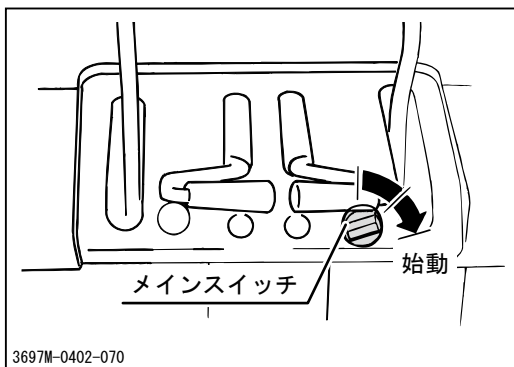


5. 本体のアクセルレバーを「低速」と「高速」の中間位置にします。

参考：本体のアクセルレバーは、アクセルワイヤを介してエンジン側のアクセルレバーに連結されています。



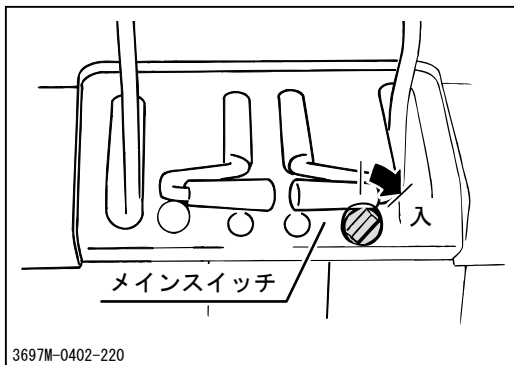
- 緊急停止スイッチが「運転」の位置にあることを確認します。「停止」の位置にある場合は右に回して「運転」の位置にします。



- エンジンキーを差し込み、「始動」の位置まで回し、エンジンを始動します。

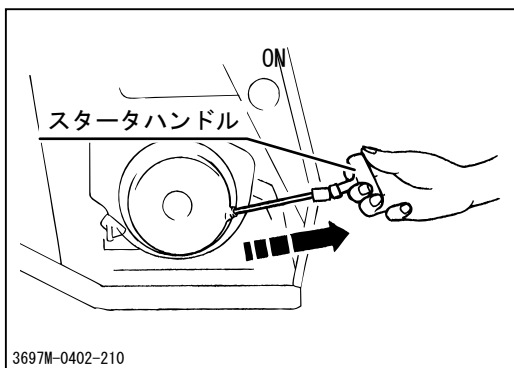
### アドバイス

- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリーを充電するようにしてください。

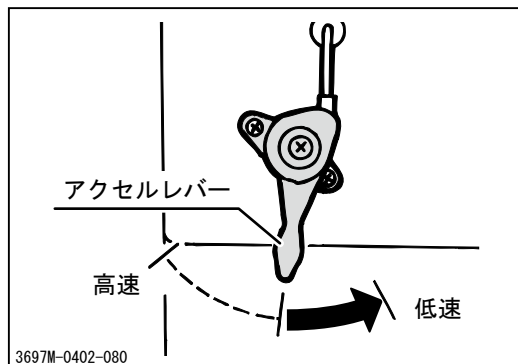


### セルフスタータで始動できない場合

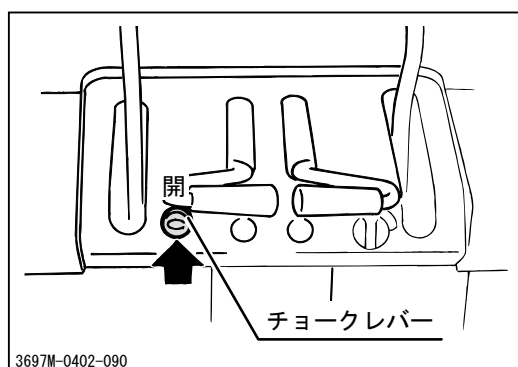
- メインスイッチを「入」の位置にします。



- スタータハンドルを握り、勢いよく引っ張ります。エンジンが始動したら、スタータハンドルを持ったままゆっくりと元の位置に戻します。



9. アクセルレバーを「低速」側に動かします。



10. チョークレバーを「全開 (↑↓)」の位置に戻し、3～5分間暖機運転をします。

#### 👉 アドバイス

- ・購入後、約40～50時間は慣らし運転期間として、高負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

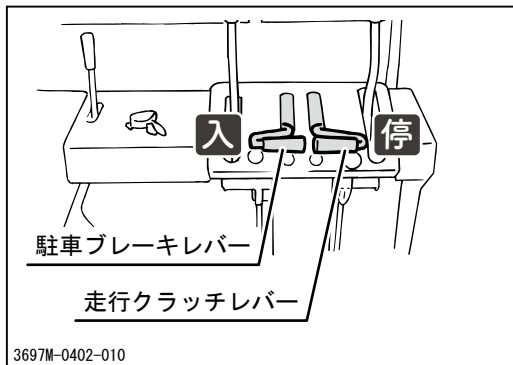
## 運転のしかた

### 警告

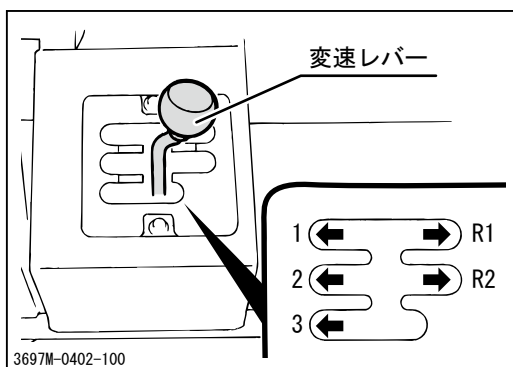
- ・ 運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。
- ・ 発進時は必ず周囲の安全を確認し、走行時は路面の勾配や状態に応じた速度で走行してください。
- ・ 急発進・急加速・急旋回を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・ 荷台を上昇した状態で走行しないでください。車両が転倒するおそれがあります。
- ・ 傾斜地では低速で走行してください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・ 斜面を横断しないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。
- ・ 斜面で旋回しないでください。車両が逆旋回したり、スリップや転倒をしたりするおそれがあります。
- ・ 見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。
- ・ 走行中にメインスイッチを「切」にしないでください。
- ・ 変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、走行クラッチレバーを「走」へ少し動かし、確実にギヤチェンジを行ってください。

## ! 注意

- ・ 走行クラッチレバー操作時はグリップ部を操作してください。グリップ以外を持つと手や指をはさむおそれがあります。
- ・ 左右両側のサイドクラッチレバーを同時に操作すると急停車しますので、緊急の場合を除き、左右のサイドクラッチレバーを同時に操作しないでください。
- ・ 急斜面では、サイドクラッチの引き具合で、車体がレバーを引いた方向と逆に挙動することがありますので注意してください。



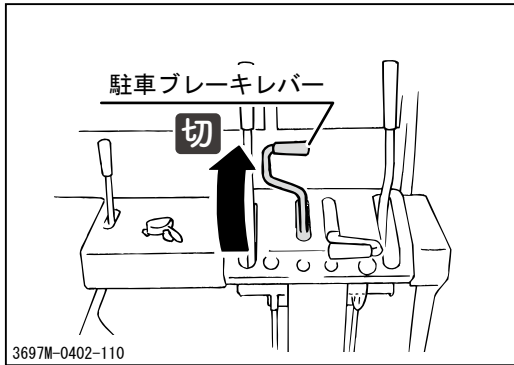
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 走行クラッチレバーが「停」、駐車ブレーキレバーが「入」の位置にあることを確認します。



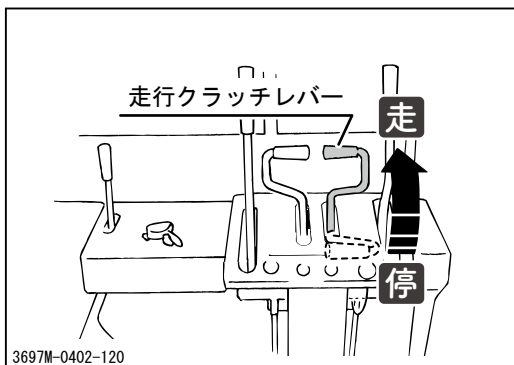
3. 変速レバーを前進（1速～3速）または後進（R 1速～R 2速）の任意の変速位置に確実に入れます。

### 👉 アドバイス

- ・ 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（👉11ページ）を参照してください。
- ・ 変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。



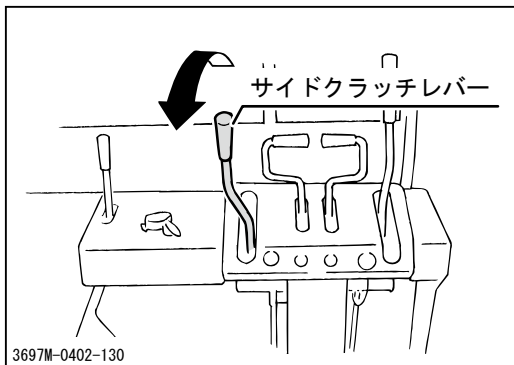
4. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。



5. 走行クラッチレバーを「走」の位置に徐々に倒し、発進させます。

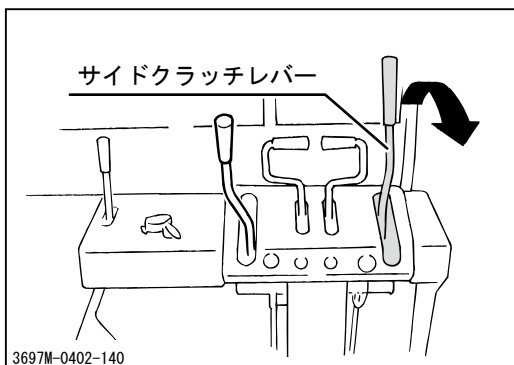
### アドバイス

- ・走行クラッチレバーを急に倒すと、エンストする場合があります。



### 左に旋回する場合

6. 左側のサイドクラッチレバーを手前に引きます。
- 旋回半径は、サイドクラッチレバーを引く力（量）により、任意に変化させることができます。軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。



### 右に旋回する場合

6. 右側のサイドクラッチレバーを手前に引きます。
- 旋回半径は、サイドクラッチレバーを引く力（量）により、任意に変化させることができます。軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。

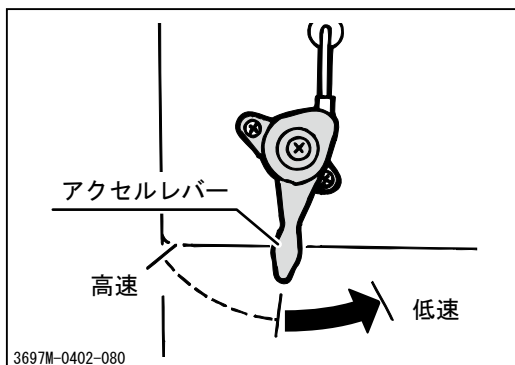
## 停止のしかた

**警告**

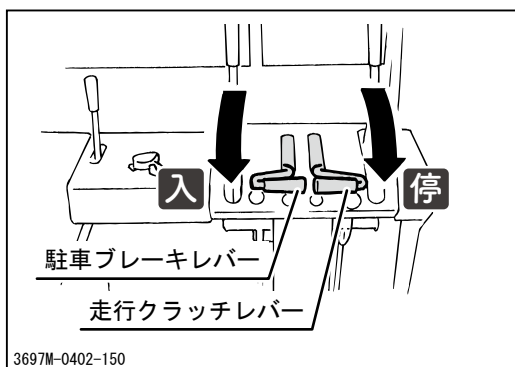
- ・ 急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。
- ・ 停止時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には停止しないでください。

**注意**

- ・ 緊急の場合は、走行クラッチレバーと駐車ブレーキレバーを同時に、または左右のサイドクラッチレバーを同時に手前へ引いてください。車体は急停車します。なお、傾斜地では車体が浮き上がることがありますので、十分注意してください。



1. アクセルレバーを「低速」の位置にし、車体を減速します。



2. 走行クラッチレバーを「停」の位置にします。
3. 駐車ブレーキレバーを「入」の位置にします。

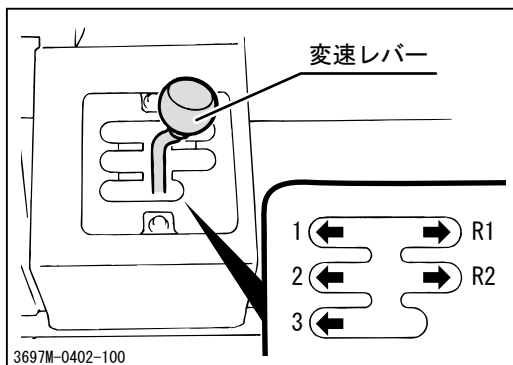
## 変速のしかた

### 警告

- ・ 変速操作は必ず車両を停止してから行ってください。
- ・ 変速操作は確実に行ってください。変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあります。

### 注意

- ・ 走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。



1. 車両を確実に停止します。
2. 22～23ページ1～5の操作を行います。（車体の停止のしかたについては、「停止のしかた」を参照してください。（22ページ）
3. 変速レバーを任意の位置に確実に入れます。

### アドバイス

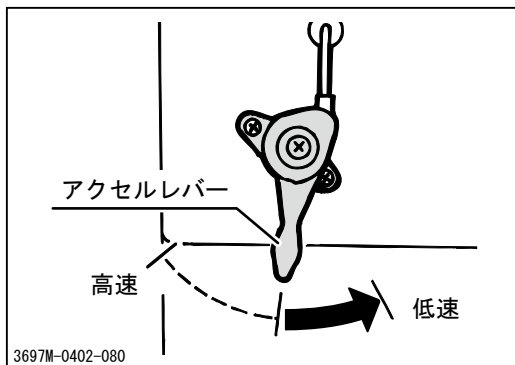
- ・ 各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（11ページ）を参照してください。
- ・ 変速レバーが入りにくいときは、走行クラッチレバーを「走」側へ少し動かしてから再度入れなおすと入りやすくなります。



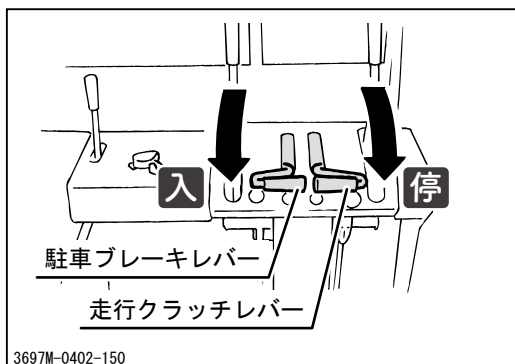
## 駐車のしかた

### 警告

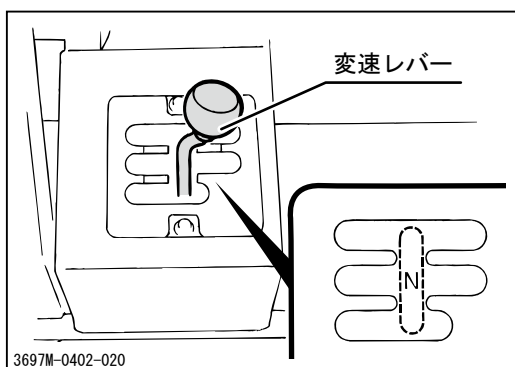
- ・ 駐車時は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。
- ・ 傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、輪止めをしてください。



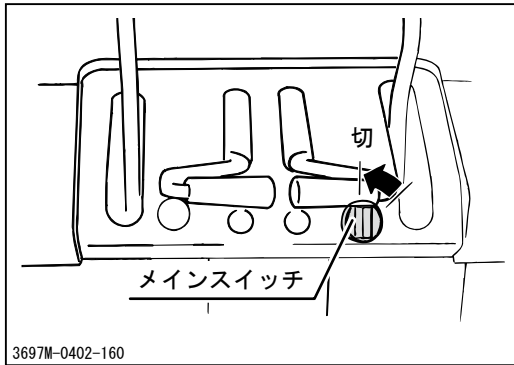
1. 車両を確実に停止します。
2. アクセルレバーを「低速」にし、エンジン回転数を下げます。



3. 走行クラッチレバーを「停」の位置にします。
4. 駐車ブレーキレバーを「入」の位置にします。



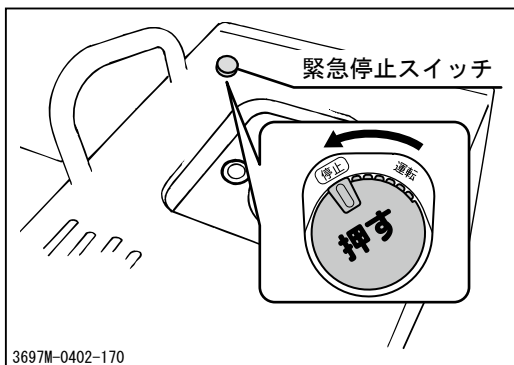
5. 変速レバーを「N（ニュートラル）」にします。



6. メインスイッチを「切」の位置にします。
7. エンジンキーを抜き取ります。

### 👉 アドバイス

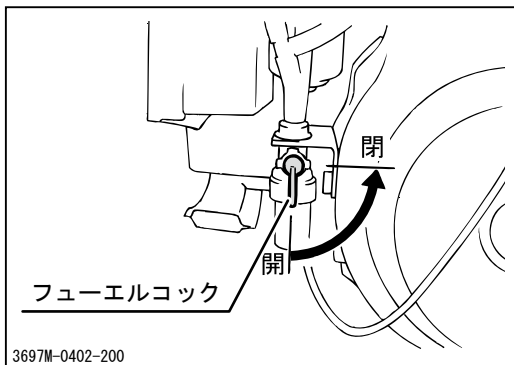
- ・キースイッチを「入」のままにしておくと、バッテリーから各回路に電流が流れ続け、バッテリーの上がりの原因になります。



8. 緊急停止スイッチを「停止」の位置にします。

### 👉 アドバイス

- ・緊急停止スイッチを押してエンジンを停止することもできます。
- ・緊急停止スイッチでエンジンを停止した際は、メインスイッチも [切] にしてください。メインスイッチが [入] の場合は、微弱電流が流れ、バッテリー上がりを起こす可能性があります。



9. フューエルコックを「閉」にします。

### 👉 アドバイス

- ・エンジン回転数が低回転の状態でも長時間使用すると、点火プラグにカーボンがたまりやすくなります。低回転で長時間使用した場合には、エンジン停止前に高回転で連続運転をし、カーボンを除去してください。

## 作業のしかた

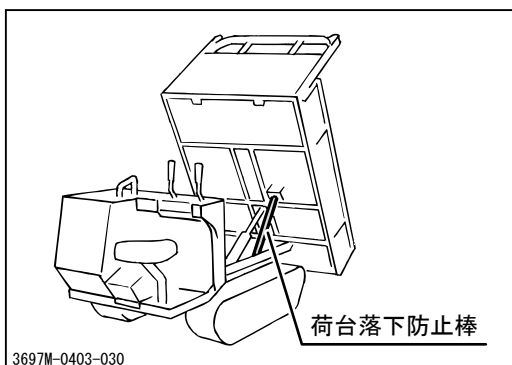
## ダンプ操作(ダンプ仕様車のみ)

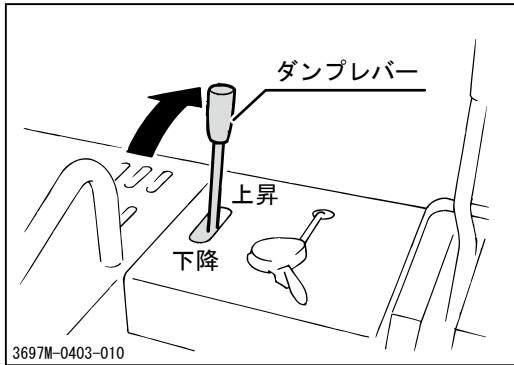
**警告**

- ・ダンプ操作時は必ず周囲の安全を確認してください。
- ・傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。車両が転倒するおそれがあります。
- ・荷台を上昇したままでの作業、または荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。

**注意**

- ・荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転数を低くして荷台をゆっくり下げてください。
- ・荷台を下降する前に、必ず荷台落下防止棒を元に戻してください。
- ・ダンプ操作は必ずエンジンが回転している状態で行ってください。



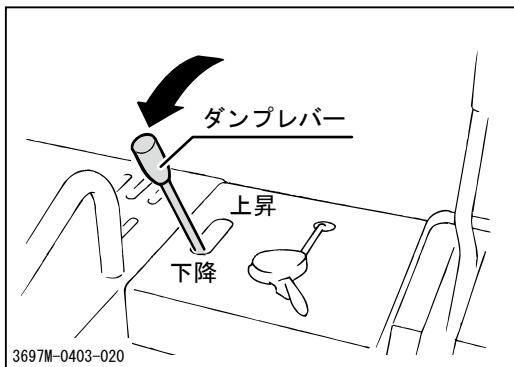


## 荷台を上昇させる場合

1. アクセルレバーにてエンジン回転数を任意にします。
2. ダンプレバーを「上昇」の位置に倒します。
3. 荷台が上限まで上がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。

## 👉 アドバイス

- ・エンジン回転数でダンプの速度をコントロールすることができます。
- ・低回転（アイドル）ではエンスト場合があります。



## 荷台を下降させる場合

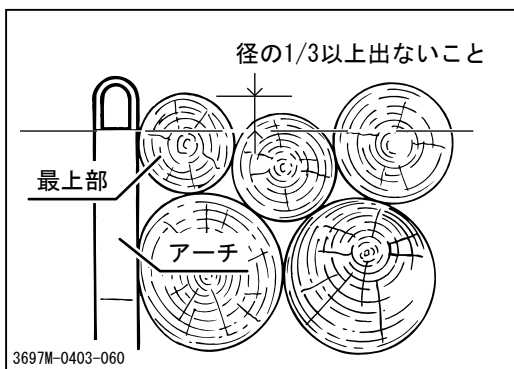
1. ダンプレバーを「下降」の位置に徐々に倒します。
2. 荷台が下限まで下がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。

## 積載のしかた（椎茸原木用荷台）

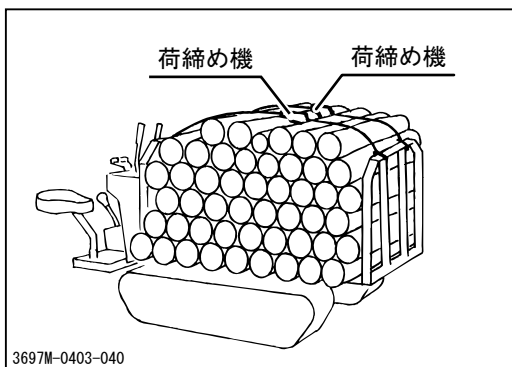
### 警告

- ・ 荷締め機等の解除時および荷降し時には、原木の落下のおそれがある区域に人がいないことを確認してから作業をしてください。
- ・ 荷降しは積荷の上部から順に行い、中抜きはしないでください。

### 注意

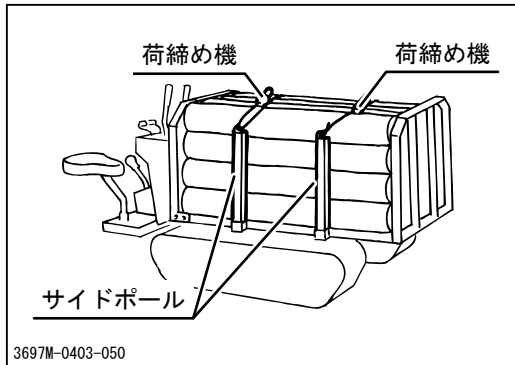


- ・ 左図のように、アーチおよびサイドポールに接した最上部の材の直径の約3分の1以上が、アーチおよびサイドポールの先端から出ないように積み込んでください。



#### 横積みの場合

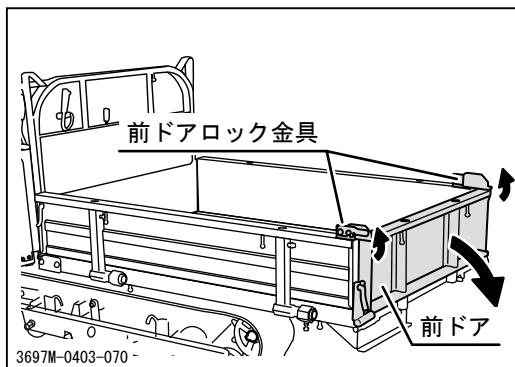
1. 積み荷を荷締め機等で締め込み、固定します。



## 縦積みの場合

1. サイドポール（標準で装備）を使用し、積み荷を図示のように積みます。
2. 積み荷を荷締め機等で締め込み、固定します。

## 前ドアの開閉



### 箱型荷台ダンプ仕様の場合

#### 前ドアの開け方

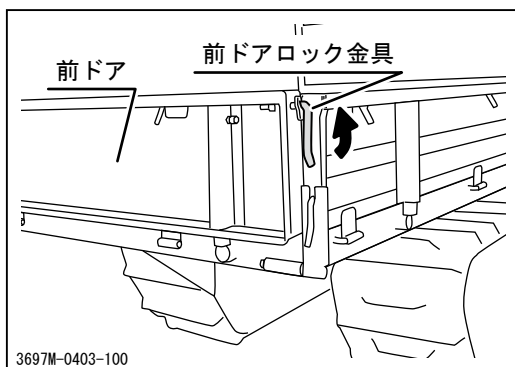
1. 前ドアロック金具を解除します。
2. 前ドアを開けます。

#### 前ドアの閉め方

1. 前ドアを閉めます。
2. 前ドアロック金具をロックします。

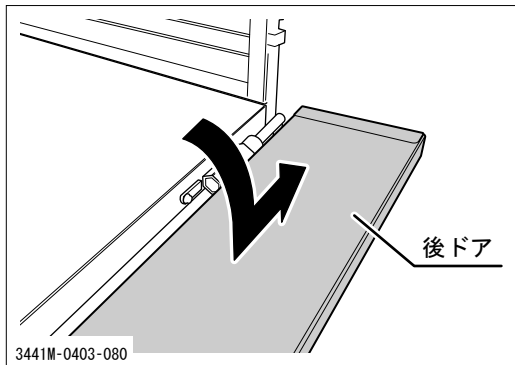
#### 👉 アドバイス

- ・ 荷台を少し上昇すると、前ドアを取り外すことができます。

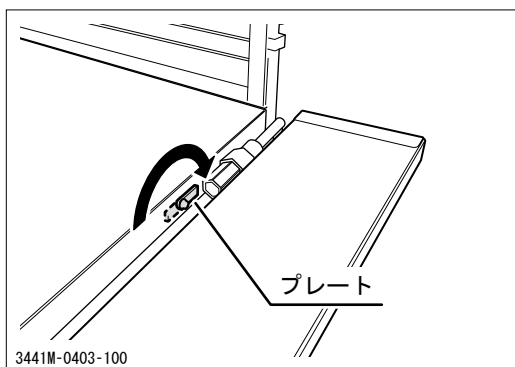


### 平ボディ仕様の場合

1. 前ドアのロック金具を解除します。



- 前ドアが水平位置まで倒れたら、右にスライドし固定します。  
前ドア（箱型荷台仕様）は水平と水平から60度の2段階を固定することができます。

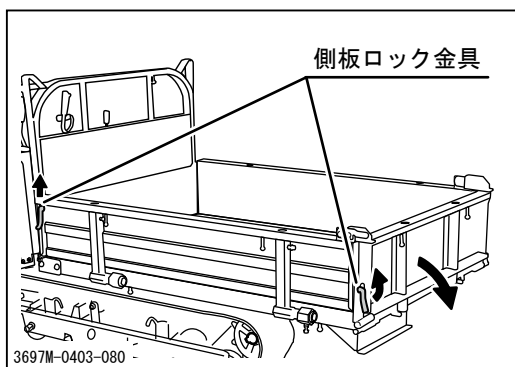


- 前ドア固定プレートを留めているボルトを緩め、プレートを反転します。
- ボルトを締め付け、プレートを確実に固定します。

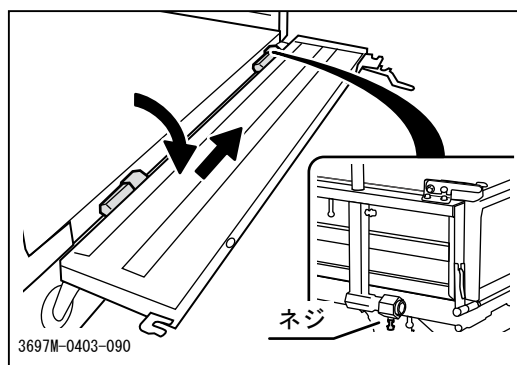
## 荷台側板の操作

### ⚠ 注意

・側板を開いて使用する場合は、必ず前ドアを開けるか、取り外して使用してください。



- 前ドアを開けるまたは取り外します。
- 側板ロック金具を解除します。



3. 側板を開き、前方にスライドして固定します。側板は水平と水平から60度の2段階に固定することができます。
4. ネジを締めてロックします。

## 走行路の確保

### ⚠ 警告

- ・ 本機を作業目的として、林道や作業道等で使用する場合は、安全な走行路を確保してください。

### ⚠ 注意

- ・ 走行路は本機が安全に走行できる幅員とし、少なくとも1.1m以上とし、走行路の曲線部は必要に応じて幅員を大きくしてください。
- ・ 斜面を横断する走行路は切取り路面を原則とし、盛土面については必要な補強措置をとってください。
- ・ 走行路の勾配は、20° 以下としてください。
- ・ 木橋等は、本機の走行に十分耐えられる材料および構造としてください。
- ・ 走行路は、なるべく凹凸のないよう整地しておくとともに、根株、岩石等は走行に支障のないようあらかじめ除去してください。
- ・ 土場は土砂の崩壊、落石、流水等のおそれのない場所を選定し、本機およびトラックの方向転換が安全にできる広さを確保してください。
- ・ 走行路を確保するための作業を行うときは、作業現場の崩壊および浮石等の落下の防止に十分配慮してください。



## 定期点検表

 注 意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

- ・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。
- ・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始業	月次	年次		
原 本 機	始 動 性	エンジンの始動が容易で異音がないこと	○	○	○	
	回 転 の 状 態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと		○	○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンを加速した時にアクセルレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと	○	○	○	
	排 気 の 状 態	エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること	○	○	○	
		排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと		○	○	
	エ ア ク リ ー ナ	ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと		○	○	
		エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと		○	○	清掃/交換：☞41ページ
	締 め 付 け	シリンダヘッドおよびマニホールドの締め付け部のボルトおよびナットに緩みがないこと ※これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合はこの検査を省略してもよい			○	
	弁 隙 間	弁隙間が正規であること ※弁隙間の異常による異音がなく、エンジン回転に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください

項 目		点 検 内 容	点検時期			備 考
			始 業	月 次	年 次	
原 動 機	本 体	圧縮圧力			○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンマウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと	○	○	○
		防振ゴムの損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	潤滑装置	油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞40ページ
		ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと	○	○	○	
	燃料装置	燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
		燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	清掃：☞43ページ
		燃料タンク内に水および沈殿物がないこと		○	○	
電 気 装 置	点火プラグ	電極に消耗がなく、カーボンの堆積がないこと			○	清掃/交換：☞42ページ
	充電装置	正常に作動すること			○	販売店に点検を依頼してください
	バッテリ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	点検/補給：☞55ページ
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
	配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
		配線に損傷がないこと		○	○	
動 力 伝 達 装 置	走行クラッチ	アイドル状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること	○	○	○	
		クラッチを徐々に接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること	○	○	○	
	ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと		○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと		○	○	
	Vベルト	ベルトの張りが基準値以内であること		○	○	点検/調整：☞47ページ
	Vベルトに著しい摩耗または損傷がないこと		○	○		

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始 業	月 次	年 次		
動力伝達装置	トランスミッション	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	交換：☞45ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
走行装置	クローラ	芯金の脱落および折れのないこと	○	○	○	
		ゴムの著しい欠け、劣化または摩耗がないこと	○	○	○	
		スチールコードの切断及び著しい損傷のないこと	○	○	○	
		緩みまたは張り過ぎがないこと	○	○	○	点検/調整：☞44ページ
		張りボルトに変形、腐食がないこと		○	○	
	サイドクラッチ	操作時に異音がなく確実に作動すること	○	○	○	
		レバーの遊びおよび引きしろが適正であること	○	○	○	点検/調整：☞50ページ
		ワイヤの損傷および接続部のガタならびに各ピンの錆び付きがないこと		○	○	
	転遊動輪スプロケット	亀裂、変形および著しい摩耗がないこと	○	○	○	
		軸部にガタ、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	○		
軸部周辺よりオイル漏れがないこと		○	○	○		
制動装置	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	調整：☞49ページ
		レバーの引き力及び戻り具合が正常であること	○	○	○	
		ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること	○	○	○	
ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと	○	○	○		
	連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと	○	○	○		

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月次	年次		
車体・安全装置等	車および車枠	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	カバ	亀裂、変形がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷および荷台扉	荷台の上下が円滑におこなえること	○	○	○	
		ドアの開閉またはロックに異常がないこと	○	○	○	
		亀裂、変形または腐食がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		フレームと荷台の各ピン部に著しいガタがないこと。		○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒に変形がないこと		○	○	
マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○		
油圧装置※ダンプレ仕様の車のみ	油圧パッケージ	油圧パッケージ内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	点検/交換：☞53ページ
		油圧パッケージ周辺からの油漏れがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ブリーザに目詰まりのないこと			○	
		パイプおよびホースとの継手部、シール部等からの油漏れがないこと		○	○	
		油圧パッケージ作動時に異常振動、異音または異常発熱がないこと		○	○	
		負荷時に油圧ポンプの吐出量および吐出圧力がメーカー指定の基準値内であること ※上記項目の異常振動、異音および異常発熱がなければこの検査を省略してもよい			○	
	配管 (ホース類、高圧パイプ)	配管に亀裂、損傷、劣化またはねじれがないこと		○	○	
		配管継手部からの油漏れがないこと		○	○	
		配管の取付状態が適正で、ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考
		始 業	月 次	年 次	
油 圧 装 置	円滑に作動すること		○	○	
	シリンダを伸縮作動した時にシール部からの油漏れがないこと		○	○	
	シリンダに負荷をかけて静止した時の伸縮量がメーカー指定の基準値内であること			○	
	シリンダチューブおよびロッドに打痕、亀裂、曲がりまたは擦り傷がないこと		○	○	
	シリンダ取付ピンに損傷または著しい摩耗がないこと		○	○	

## 給油・給水・給脂・注油一覧表

項 目	補 給 ( 交 換 ) 時 期	推 奨 品	容 量
燃 料	随時	自動車用無鉛ガソリン	6.0ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：20時間 2回目以降：50時間毎	エンジンオイル API分類 SE級以上 SAE分類 10W-30	1.0ℓ
トランスミッションオイル	交換 初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	2.0ℓ
パワーパッケージオイル (ダンプ仕様車のみ)	100時間毎に点検し、 不足時に補給	タービン油 ISO:VG32 JIS:#90	1.6ℓ
転 輪 、 誘 導 輪 転 輪 取 り 付 け ピ ン	6ヶ月毎 *購入後、半年は給脂不要	シャージグリース	-
各 摺 動 部	6ヶ月毎 *購入後、半年は注油不要	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80	-
バ ッ テ リ 液	毎月点検し不足時に補給	蒸留水	-

\*1 使用するオイルについて、詳しくは「エンジン取扱説明書」を参照してください。

消耗部品（交換部品）一覧表

**⚠ 注 意**

・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施されるときは、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

項 目	部品番号	交 換 イ ン タ ー バ ル	個 数
<b>エンジン</b>			
エアクリーナエレメント	KA40088AA	不具合があれば交換	1
点火プラグ (BP5ES)	KE41023AC	不具合があれば交換	1
フューエルフィルタ	KF31018AA003	不具合があれば交換	1
<b>走行装置</b>			
Vベルト (エンジン-中間 SB37レッド)	08521300037	不具合があれば交換	2
Vベルト (中間-トランスミッション B86)	08520000086	不具合があれば交換	2
Vベルト (ダンプ仕様SB33レッド)	08521300033	不具合があれば交換	1
ブレーキライニング	73014007000	不具合があれば交換	2
クローラ	36562011000	不具合があれば交換	2
<b>電装品</b>			
バッテリー (30A19R)	34070501000	不具合があれば交換	1

**👉 アドバイス**

- ・油圧ホースなどのゴム製品は使わなくても老化する消耗品です。2年ごと、または傷んだときには新品と交換してください。

## カバーの取り外しかた・取り付けかた

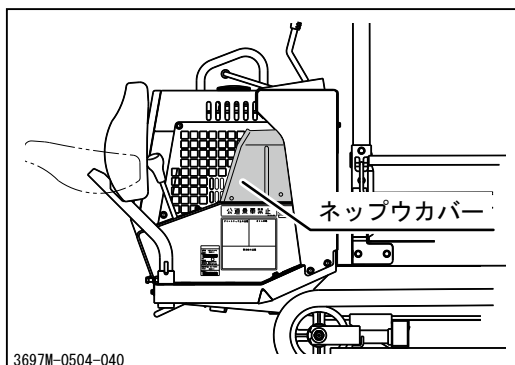
**警告**

- ・作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

**注意**

- ・カバーの開閉時および取り付け・取り外し時に手や指をはさまないように十分注意してください。
- ・点検および作業を行うために開けたり外したりしたカバーは、作業終了後、必ず元に戻してください。

## 箱型荷台・椎茸原木荷台仕様ネップウカバーの取り外しかた・取り付けかた

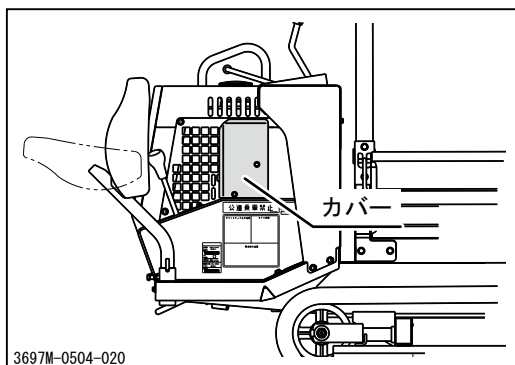
**取り外し**

1. ボルト（3本）を取り外し、ネップウカバーを取り外します。

**取り付け**

1. ネップウカバーを取り付け、ボルトを取り付けます。

## 箱型荷台ダンプ仕様カバーの取り外しかた・取り付けかた

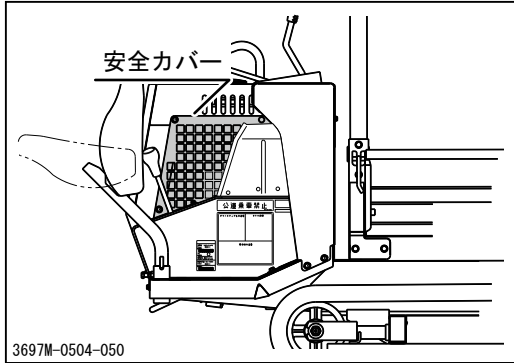
**取り外し**

1. ボルト（2本）を取り外し、カバーを取り外します。

**取り付け**

1. カバーを取り付け、ボルトを取り付けます。

箱型荷台・椎茸原木荷台仕様安全カバーの取り外しかた・取り付けかた



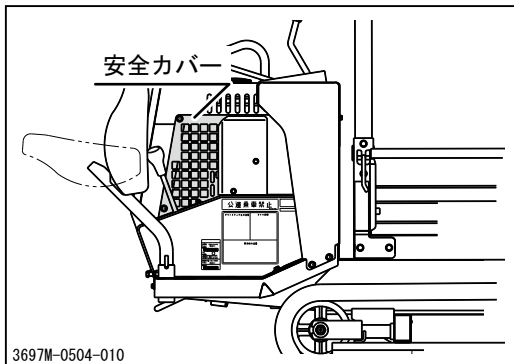
取り外し

1. ボルト（4本）を取り外し、安全カバーを取り外します。

取り付け

1. ベルトカバーを取り付け、ボルトを取り付けます。

箱型荷台ダンプ仕様安全カバーの取り外しかた・取り付けかた



取り外し

1. ボルト（3本）を取り外し、安全カバーを取り外します。

取り付け

1. 安全カバーを取り付け、ボルトを取り付けます。



## エンジン

**警告**

- ・作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・エンジン停止直後はエンジンオイルおよびエンジン各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

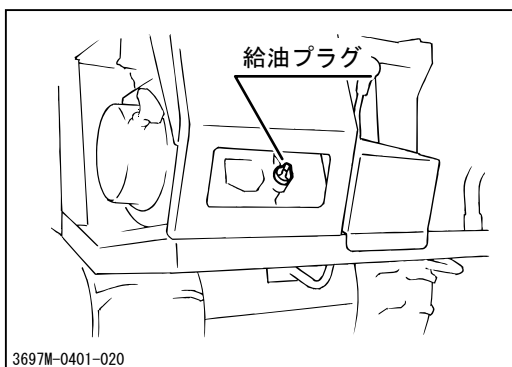
## エンジンオイルの点検・補給・交換

**注意**

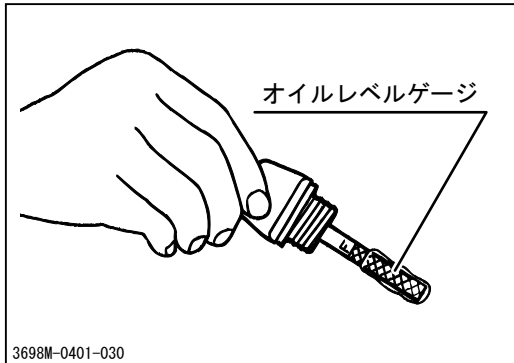
- ・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。
- ・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。

**アドバイス**

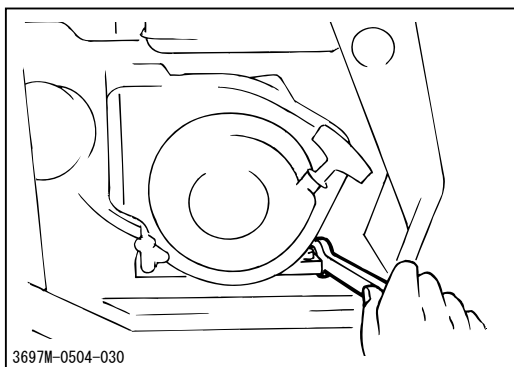
- ・オイル量の点検はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。
- ・指定オイル、規定オイル量：➡36ページ

**点検・補給**

1. エンジンオイルの給油プラグ（オイルレベルゲージ付き）を取外します。



2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。  
使用オイル：☞36ページ
3. 給油プラグを取付けます。



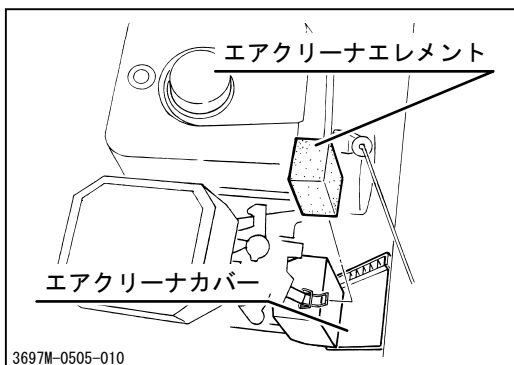
### 交換

1. オイルを抜き取る適切な容器を用意します。
2. ドレンプラグを取り外し、クランクケース内のオイルを排出します。
3. ドレンプラグを取り付けます。
4. 給油プラグを取り外し、指定のオイルを補給します。

## エアクリーナの清掃・交換

### ⚠ 注意

- ・エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。
- ・エレメントに穴が開いている場合は、すぐに新品と交換してください。



### 点検・交換

1. エアクリーナカバーを取り外します。
2. エアクリーナエレメントを取り外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エアクリーナの清掃・交換を行います。
4. エアクリーナカバーを取り付けます。

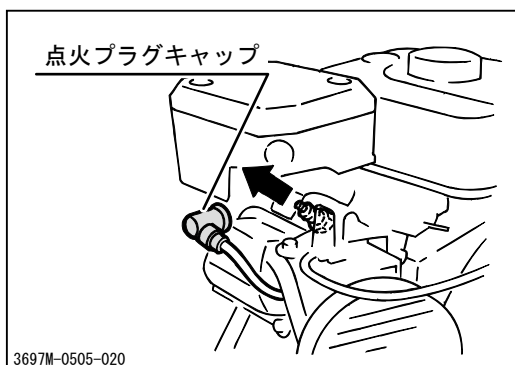
### 👉 アドバイス

- ・ エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。

## 点火プラグの点検・清掃・交換

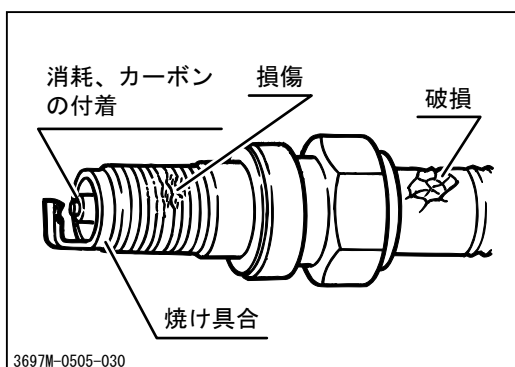
### ⚠ 注意

- ・ 点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。
- ・ 点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。

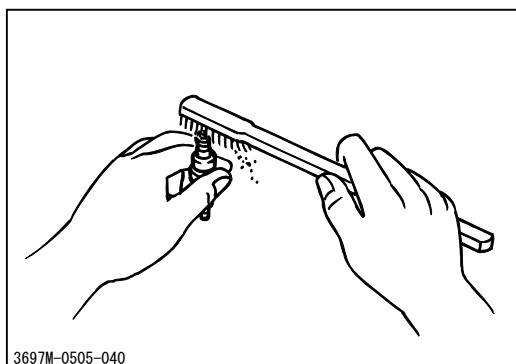


### 点検

1. 点火プラグキャップを取り外します。

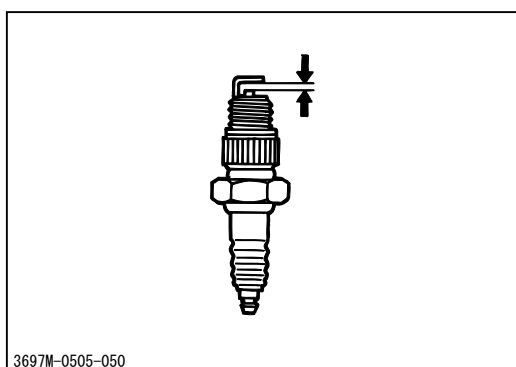


2. プラグレンチを使用して点火プラグを取り外します。
3. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。（点火プラグの仕様：☞37ページ）
  - ・ 絶縁体破損の有無
  - ・ 電極の消耗状況
  - ・ カーボンの堆積
  - ・ ガスケットの損傷、破損
  - ・ 火花部碍子の焼け具合



## 清掃

1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。

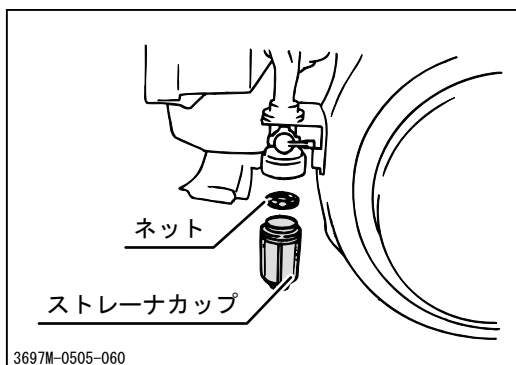


2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。  
標準値：0.7mm
3. 点火プラグを取り付けます。

## フューエルフィルタの清掃

### 警告

- ・ 燃料の取り扱い時は、火気を燃料に近づけないでください。
- ・ 燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合はすみやかに拭き取ってください。
- ・ 廃油は法令に従って適切な処理をしてください。



## 清掃

1. フューエルロックが「閉」の位置にあることを確認し、ストレーナカップを取り外します。
2. ストレーナカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。
3. ネットを新しいガソリンで洗浄します。
4. ネットおよびストレーナカップを取り付けます。

## 走行装置

**警告**

- ・作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

## クローラの点検・調整

**警告**

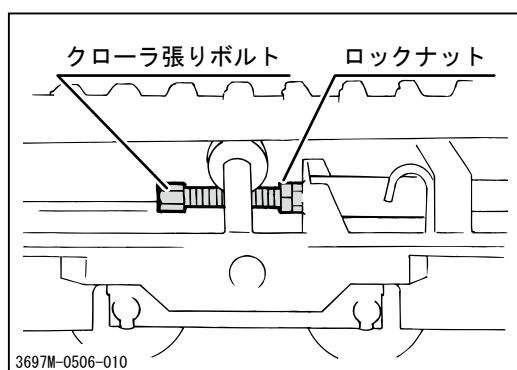
- ・作業時はジャッキが外れないように確実に固定してください

**注意**

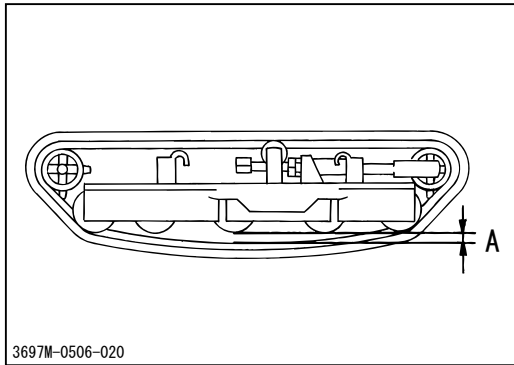
- ・クローラは必ず適正な張りで使用してください。脱輪したり、クローラの寿命が短くなったりするおそれがあります。

**アドバイス**

- ・クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなると sprocket とのなじみによる緩みが発生しますので、定期的に点検・調整を行ってください。



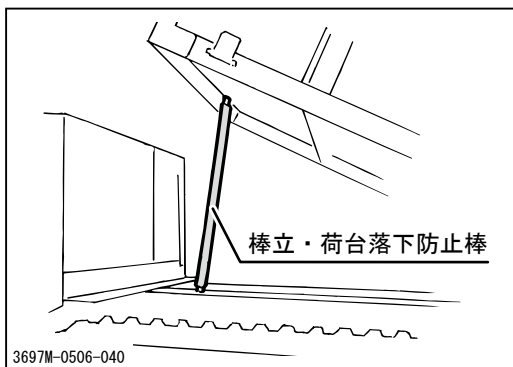
1. 車体を水平な場所に停車させます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。



4. クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間(図表A)が10~15mm程度(転輪が水平な状態で)になるよう調整します。
5. 調整後、ロックナットを確実に締付けます。

### トランスミッションオイルの交換

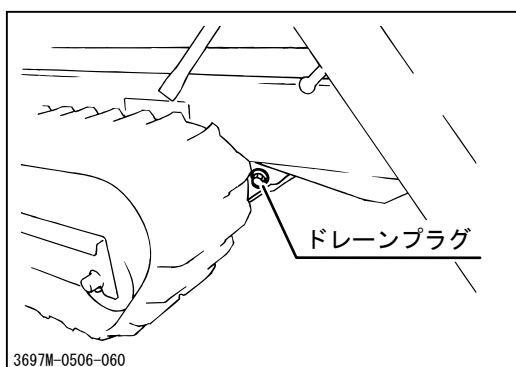
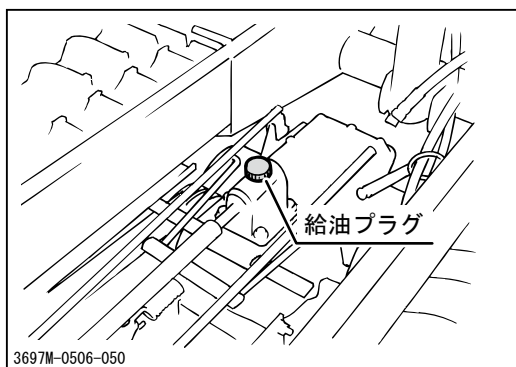
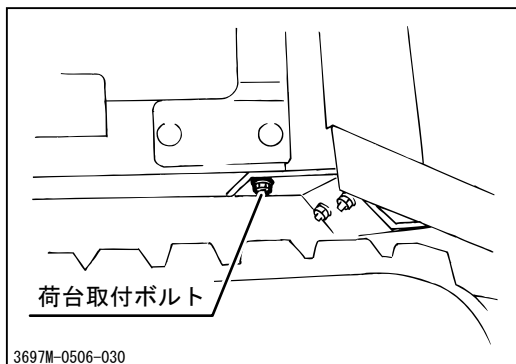
#### ⚠ 危険



- ・荷台を上昇させた後は、必ず付属の棒立(油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒)で荷台を確実に支えてください。

#### ⚠ 注意

- ・オイル交換時には火傷のおそれがあります。
- ・廃油は法令に従って適切な処理をしてください。



### 点検／補給

1. 車体を水平な場所に停止します。
2. 荷台を上昇し、付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）で確実に固定します。

### 👉 アドバイス

- ・油圧ダンプ車以外の車種では、図示の荷台取付けボルト2本（左右各1本）を取外し、手動にて荷台を持ち上げてください。

3. 給油プラグを取り外します。
4. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

- ・指定オイル：👉36ページ オイル量：2.0ℓ

5. 給油プラグを取り付けます。
6. 付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）を戻し、荷台を下降します。

### 👉 アドバイス

- ・油圧ダンプ車以外の車種では、作業終了後、荷台取付けボルト2本（左右各1本）を確実に取付けてください。

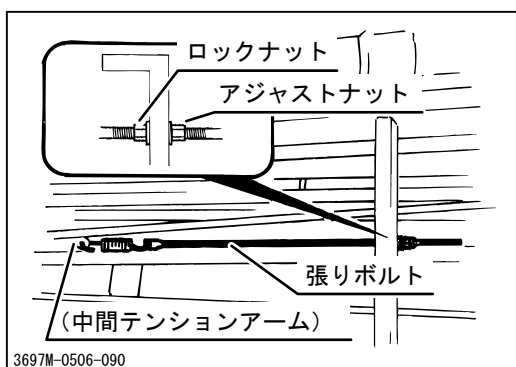
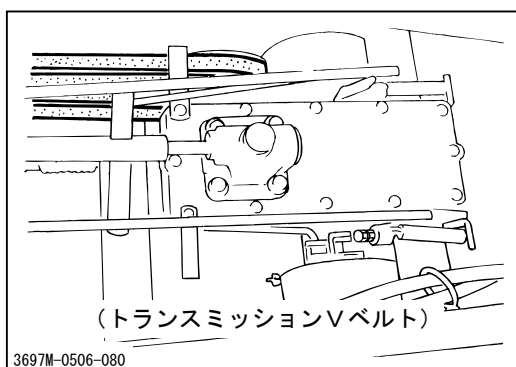
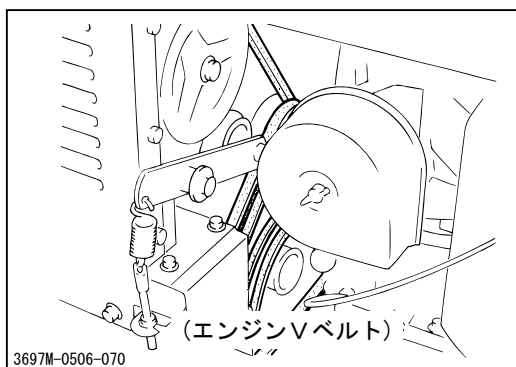
### 交換

1. オイルを抜き取る適切な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを抜き取ります。
3. ドレーンプラグを取り付け、給油プラグを外しオイルを補給します。

## 走行Vベルトの点検・調整

### ⚠ 注意

- ・ベルトがずべる場合にはベルトの張りを調整してください。ベルトの寿命が短くなるおそれがあります。



### 点検

1. 荷台を上昇し、付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）で確実に固定します。
2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。
3. 走行クラッチレバーを「走」の位置に入れます。
4. Vベルトの張り具合を手で押さえて点検し、適正な張りでない場合は調整します。
5. 付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）を戻し、荷台を下降します。

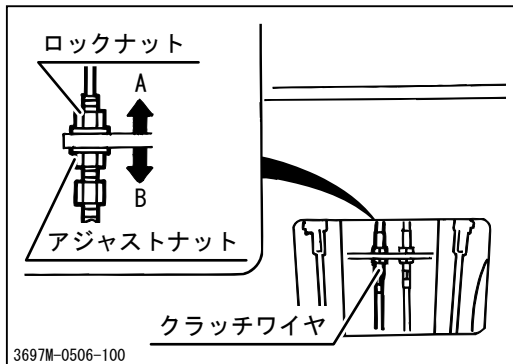
### 調整（トランスミッションVベルト）

1. 張りボルトのロックナットを緩めます。
2. アジャストナットを回転させ、中間テンションアームと張りボルトをつないでいるバネが約3～5mm程度伸びるよう調整します。
3. 調整後、ロックナットを確実に締付けます。

### 交換

販売店へ依頼してください。





### 調整（走行クラッチ）

1. 荷台を上昇し、付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）で確実に固定します。
2. 走行クラッチレバーを「停」の位置にし、クラッチワイヤをフリーの状態にします。
3. クラッチワイヤのロックナットを緩めます。
4. ジャストナットを回し、クラッチワイヤを調整します。
  - ・ 走行クラッチの切れが悪い場合
  - ・ アジャストナットをBの方向へ。
  - ・ Vベルトがすべる場合アジャストナットをAの方向へ。
5. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。
6. 付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）を戻し、荷台を下降します。

### ベルトストッパの調整

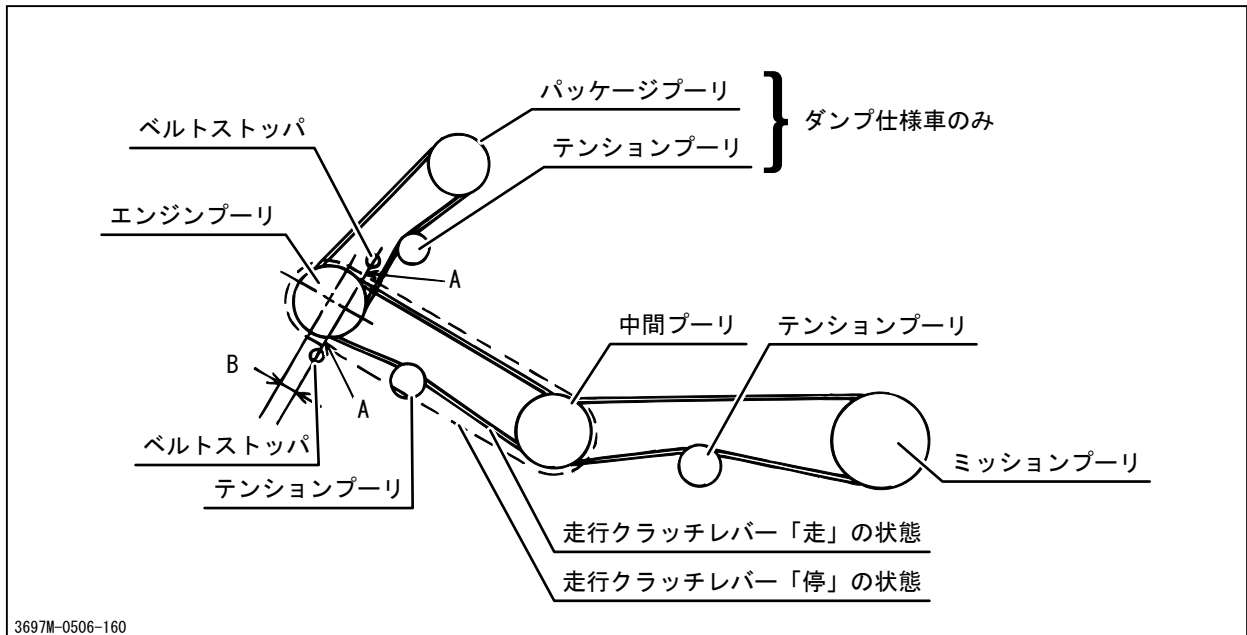
#### ⚠ 注意

- ・ クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパをはずした場合、以下のように調整してください。
- ・ 調整はエンジン停止の状態で行ってください。

1. カバー取り外し項目に従って、カバーを取り外します。
2. 走行クラッチレバーが「走」の状態、走行Vベルトとベルトストッパの間隔Aを5～6mm程度に、Bの間隔を10～20mm程度にセットします。

#### 👉 アドバイス

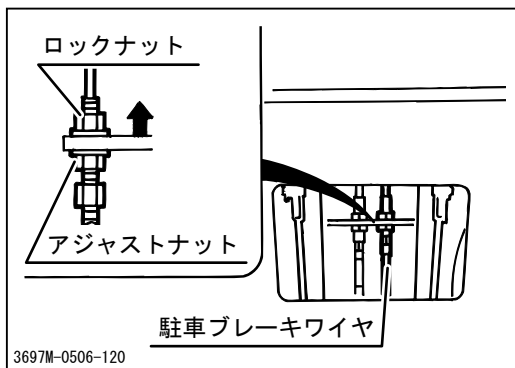
- ・ ベルトストッパと他のVベルトとのすき間を走行クラッチレバーが「走（走行）」の状態、5mm以上あけてください。



ブレーキの点検・調整

**警告**

・ブレーキの効きが少しでも甘くなったらすぐに調整を行ってください。

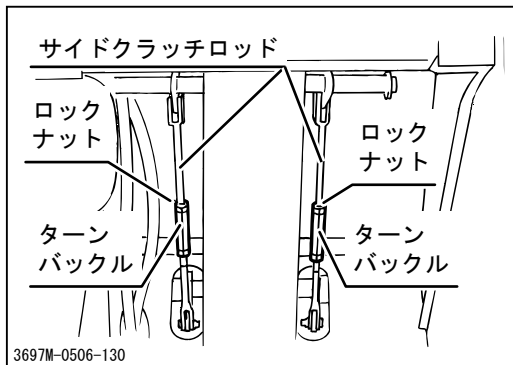


1. 荷台を上昇し、付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）で確実に固定します。
2. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にし、クラッチワイヤをフリーの状態にします。
3. 駐車ブレーキワイヤのロックナットを緩めます。
4. アジャストナットを回し、駐車ブレーキワイヤを調整します。
  - ・ブレーキの効きが悪い場合  
アジャストナットを矢印の方向へ回転させ、駐車ブレーキレバーが「入」でトランスミッションとブレーキワイヤをつないでいるバネが3～5mm程度伸びるよう調整してください。
5. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。
6. 付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）を戻し、荷台を下降します。

## サイドクラッチの調整

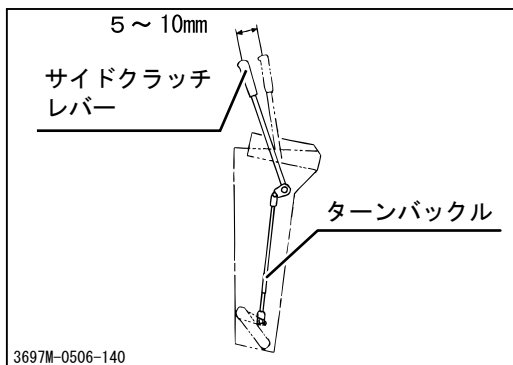
### 👉 アドバイス

- ・サイドクラッチレバーに遊びが大きくなった場合は、サイドクラッチロッドのターンバックルで調整してください。旋回が円滑にできない場合は、ブレーキアジャストボルトで調節してください。



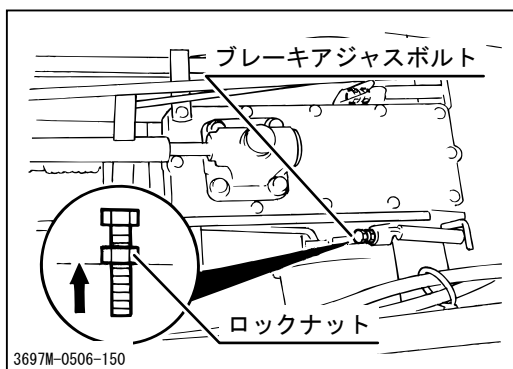
### (サイドクラッチレバーの遊びが大きい場合)

1. サイドクラッチロッドのロックナットを緩めます。
2. ターンバックルを回し、サイドクラッチレバーの遊びが下記の値になるように調整します。  
サイドクラッチレバーの遊び：  
5～10 mm (レバー握り部で)
3. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。



### (旋回不良の場合)

1. 荷台を上昇し、付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）で確実に固定します。
2. ブレーキアジャストボルトのロックナットを緩めます。
3. ブレーキアジャストボルトを矢印の方向（ボルトが伸びる方向）に回して調整します。
4. 調整後、ロックナットを確実に締め付けます。
5. 付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）を戻し、荷台を下降します。



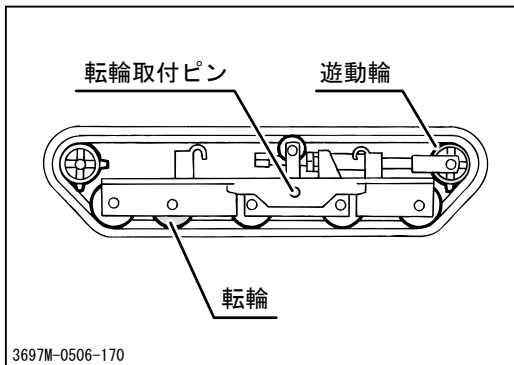
給脂・注油

**⚠ 注意**

・給脂・注油がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂・注油を行ってください。

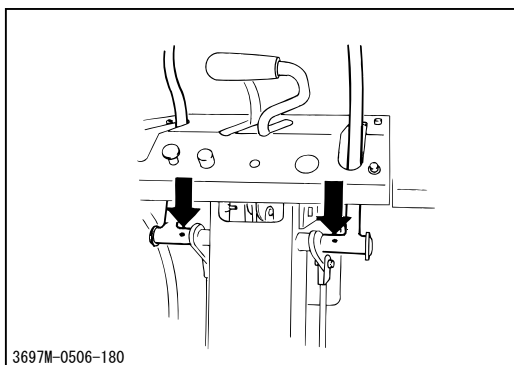
**👉 アドバイス**

- ・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- ・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。



**転輪、誘導輪、転輪取付ピン**

1. 市販の手動式グリースポンプまたはエア式グリースポンプを使用して図示箇所に給脂します。  
使用グリース：☞36ページ

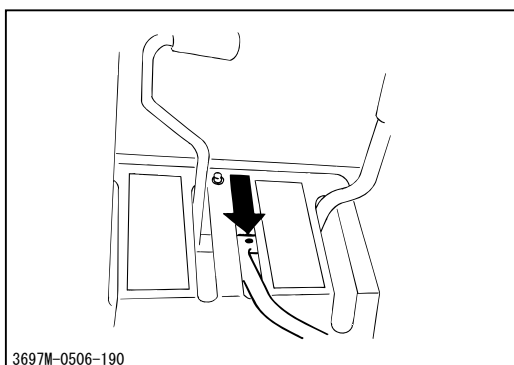


**各摺動部**

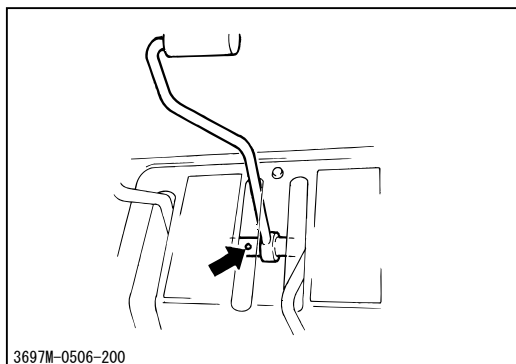
下記箇所に注油します。

使用オイル：☞36ページ

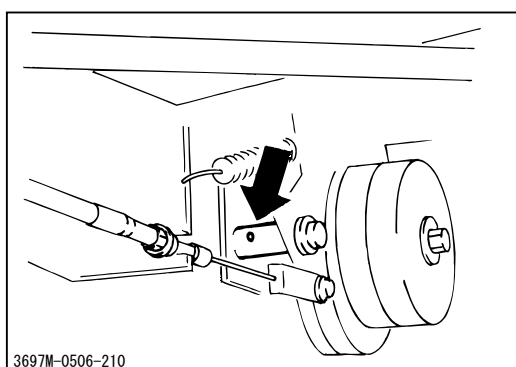
- ① サイドクラッチレバー支点



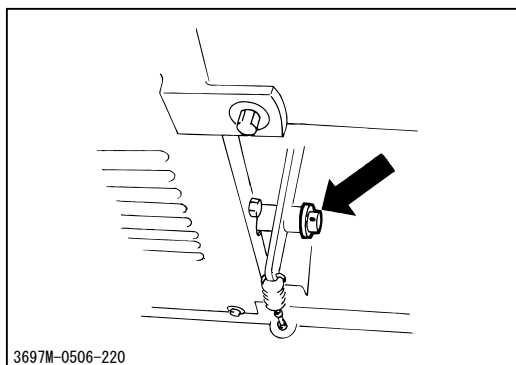
- ② 走行クラッチレバー支点



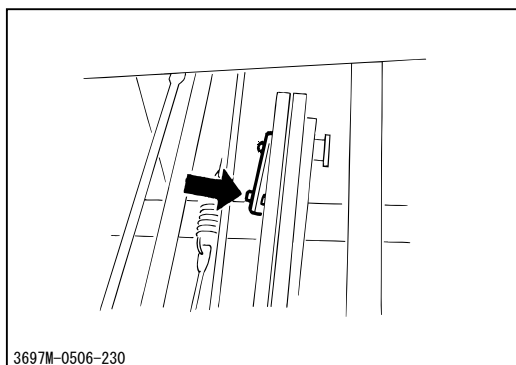
③ 駐車ブレーキレバー支点



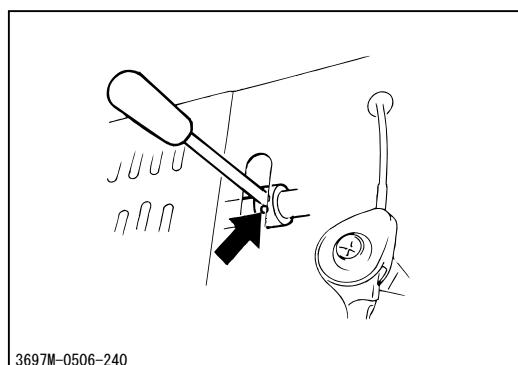
④ 走行クラッチテンションアーム支点



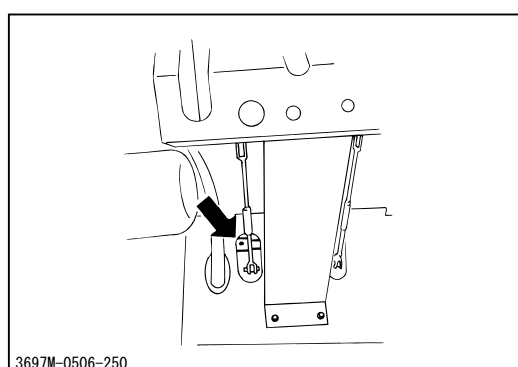
⑤ 油圧テンションアーム支点(ダンプ仕様車のみ)



⑥ 中間テンションアーム支点



⑦ダンプレバー支点（ダンプ仕様車のみ）



下記箇所に給脂に給脂します。  
 使用グリース：☞36ページ  
 サイドクラッチ中間支点

## 油圧装置

### ⚠ 警告

- ・作業時は必ずエンジンを停止してください。
- ・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどの恐れがありますので、各部が冷えてから作業をおこなってください。

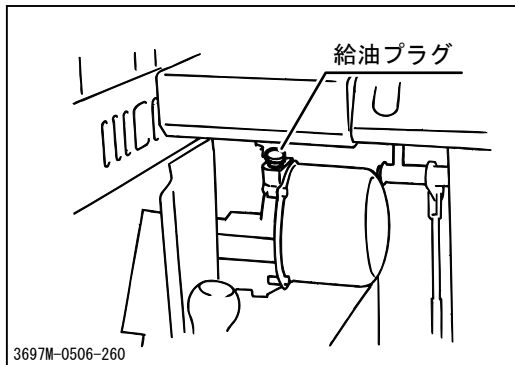
## パワーパッケージオイルの点検・補給

### ⚠ 注意

- ・オイルが減ると油圧回路内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、100時間毎にオイルの点検を行い指定のオイルを過不足なく補給してください。
- ・廃油は適切な処理をしてください。

### 👉 アドバイス

- ・オイル量の点検は荷台を下げてから行ってください。荷台を上げた状態では正確なオイル量が点検できません。

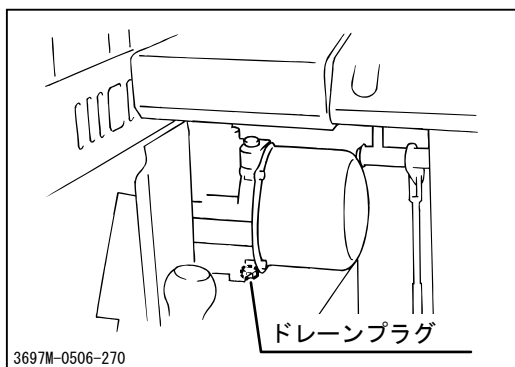


### 点検・補給

1. 車体を水平な場所に停車します。（荷台は下降した状態にしてください。）
2. 給油プラグ（検油棒付き）を取外します
3. オイル量を目視点検し、オイルが不足している場合はオイルを補給します。  
使用オイル：☞36ページ  
オイル量：1.6ℓ（検油棒の先端から5mm程度オイルが付着するまで）
4. 給油プラグを取付けます。
5. エンジンを始動し、オイルを循環させます。

### 👉 アドバイス

- ・エンジンを始動し、荷台を上昇させると、最初はエアが入っていますのでノックしますが、2～3回繰り返すと、正常な状態になります。



### 交換

1. オイルを抜き取るための適当な容器を用意します。
2. ドレインプラグを取外し、オイルを抜き取ります。
3. ドレインプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、オイルを注入します。  
（上記「点検／補給」を参照）

## 電気装置

 警告

- ・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。

## バッテリー液の点検・補給・充電

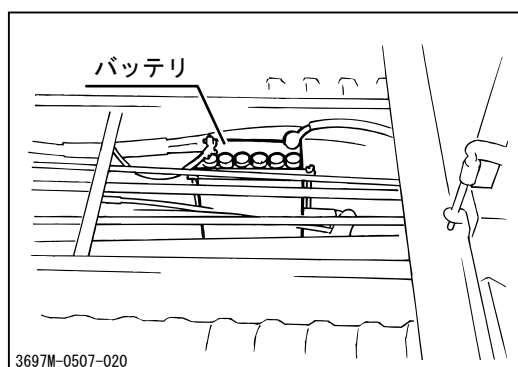
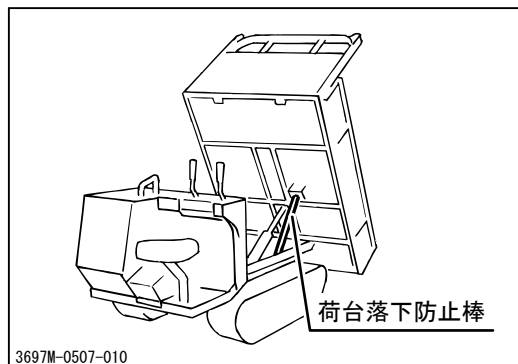
 警告

- ・バッテリー液量が「LOWER LEVEL」以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの寿命を著しく縮めます。また、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- ・バッテリー液(希硫酸)が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- ・バッテリーに火気を近づけないでください。
- ・バッテリーの充電は車両から取り外して行ってください。
- ・バッテリーの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気ですりこみ爆発するおそれがあります。

 注意

- ・バッテリー液を補給する時は、バッテリー液量が「UPPER LEVEL」以上になるまで補給をしないでください。バッテリー液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食したりするおそれがあります。
- ・バッテリーを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。
- ・バッテリー端子を取り外すときは(－)端子から取り外し、取り付けるときは(＋)端子から取り付けてください。(＋)端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。
- ・バッテリー端子をバッテリーに取り付けるときには(＋)と(－)を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。





### バッテリー液の点検・補給

1. 車体を水平な場所に停車します。
2. 荷台を上昇し、付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）で確実に固定します。
3. バッテリー液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリー液を補給します。  
バッテリー液量：基準線（上および下）の間  
バッテリー液：蒸留水
4. 付属の棒立（油圧ダンプ車の場合は荷台落下防止棒）を戻し、荷台を下降します。

## 使用後のお手入れ

### 注 意

- ・ エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・ 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・ 凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

## 通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

## 寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に保管する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

## 長期保管のしかた

 警告

- ・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

 注意


- ・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. クローラの下に板等を敷きます。
3. クローラの張りボルトを緩めます。(☞44ページ)
4. 指定箇所に給脂・注油を行います。(☞51ページ)
5. 走行クラッチレバーを「停」駐車ブレーキレバーを「切」の位置にし、輪止めをします。
6. エンジンキーを抜きます。
7. 付属の「エンジン取扱説明書」の指示に従って、エンジンの長期保管のお手入れをします。
8. 車両からバッテリーを取り外し、バッテリー液の点検・補給を行います。(☞55ページ)
9. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

 アドバイス

- ・バッテリーは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリーを長持ちさせることができます。
- ・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

## 不具合診断表

 注 意	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。</li> <li>・ 下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。お客様自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。</li> </ul>	

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エ ン ジ ン 関 連	エンジンがかからない (スタータが回らない)	始動安全装置が作動している	→走行クラッチレバーを「停」位置にする	15ページ
		セフティスイッチの調整不良・故障	→販売店へお問い合わせください	
		バッテリーの不良	→バッテリーを交換する	55ページ
		バッテリー端子の外れ	→接続または修理する	
		バッテリーの断線	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	13ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		フューエルコックが閉じている	→フューエルコックを開く	16ページ
		点火プラグの着火不良	→清掃または交換する	42ページ
		その他（上記以外）	→「始動のしかた」の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	15ページ
	すぐにエンストする	フューエルコックが開いていない	→フューエルコックを開く	16ページ
		暖機不足	→十分暖機する	15ページ
		チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	18ページ

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エ ン ジ ン 関 連	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	13ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	アイドル不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	出力または加速不足	スロットルの調整不良	→販売店へお問い合わせ ください	
		燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		Vベルトの緩み	→調整する	47ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	エンジンまたはエンジン 付近から異音または振動 がする		→販売店へお問い合わせ ください	
	エンジンオイルの消費が 早い	エンジンオイルの漏れ	→点検および修理する	
		その他	→販売店へお問い合わせ ください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	40ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	黒煙が多量に出る (排気状態の不良)	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	18ページ
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	41ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせ ください	
	白煙が多量に出る (排気状態の不良)	エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後、オイル量を調整する	
燃料不良		→交換する		
エンジンオイルの粘度不適正		→適正なオイルと交換する	40ページ	
その他（上記以外）		→販売店へお問い合わせ ください		
アクセルレバーが引っかかる		→販売店へお問い合わせ ください		

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
走行装置 関 連	クラッチをつないでも車体が動かない	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		Vベルトの緩み	→調整する	
		その他（上記以外）	→「運転のしかた」の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	15ページ
	クラッチの切れが悪い	ベルトストッパの調整不良	→調整する	48ページ
	Vベルトが滑る	Vベルトの緩み	→調整する	47ページ
	ギヤ抜けする	ギヤが完全に入っていない	→ギヤを確実に入れる	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	旋回が円滑に行えない	サイドクラッチの調整不良	→調整する	50ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	トランスミッション付近から異音がする	ギアの損傷、ベアリングの摩耗	→販売店へお問い合わせください	
	転輪、スプロケット、遊動輪より不連続音または異常発熱がある。		→販売店へお問い合わせください	
クローラが円滑に回転しない	調整不足	→調整する	44ページ	
制 動 装 置 関 連	ブレーキの効きが悪い	ブレーキの調整不良	→調整する	49ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
油 圧 装 置 関 連	油圧装置が作動しないまたは作動不良	作動油の不足または劣化	→補給または交換する	53ページ
		油圧系統からのオイル漏れ	→点検および修理する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
安 全 装 置	ホーンが作動しない（椎茸原木仕様のみ）	ホーンの配線の端子の外れまたは断線	→販売店へお問い合わせください	

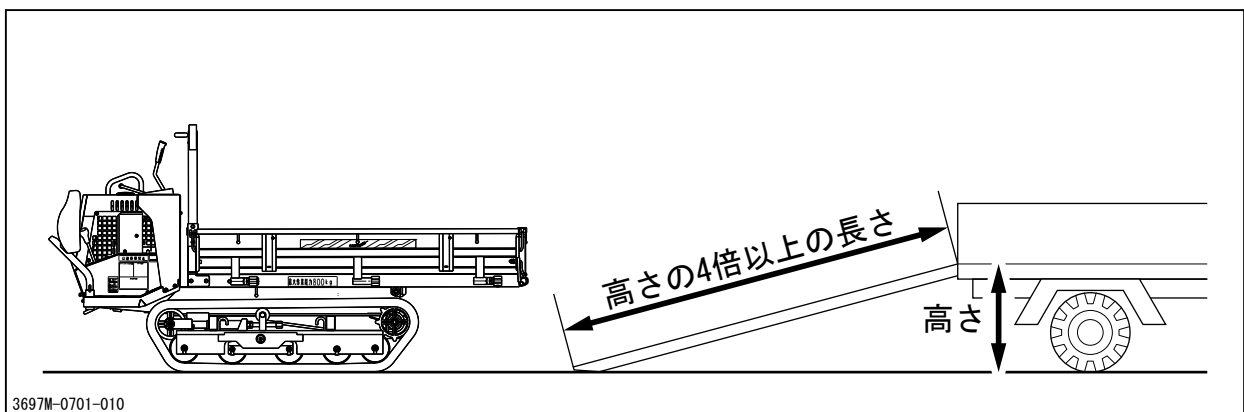
## トラックへの積み降ろし要領

### 警告

- ・トラックは平坦な場所に止め、必ず輪止めをしてください。
- ・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- ・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- ・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- ・積み降ろしは歩行運転、前進でゆっくりと行ってください。
- ・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- ・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。

### 注意

- ・アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で機械の重心が急に移動することがあるので注意してください。



1. トラックを平坦な場所に止め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 歩行運転、前進でゆっくりと積み込みます。
4. 「駐車のしかた」（24ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。